

وَبَدَا لَهُمْ سَيِّئَاتٍ مَا عَمِلُوا وَحَاقَ بِهِمْ مَا كَانُوا بِهِ يَسْتَهْزِءُونَ
 ٣٣ وَقِيلَ الْيَوْمَ نَنسِفُكُمْ كَمَا نَسِفْنَا لِقَاءَ يَوْمِكُمْ هَذَا وَمَأْوَاكُمُ النَّارُ
 وَمَا لَكُم مِّن نَّفْصِرِينَ ٣٤ ذَلِكُمْ بِأَنكُم اتَّخَذْتُم آيَاتِ اللَّهِ هُزُوًا
 وَعَرَّيْتُمُ الْحَيَوَةَ الدُّنْيَا فَالْيَوْمَ لَا يَخْرُجُونَ مِنْهَا وَلَا لَهُمْ يُسْتَعْتَبُونَ
 ٣٥ فَلِلَّهِ الْحَمْدُ رَبِّ السَّمَوَاتِ وَرَبِّ الْأَرْضِ رَبِّ الْعَالَمِينَ ٣٦
 وَلَهُ الْكِبْرِيَاءُ فِي السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ وَهُوَ الْعَزِيزُ الْحَكِيمُ ٣٧

سُورَةُ الْاٰخِثٰفِ

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

٣٨ حَمْدُ تَنْزِيلِ الْكِتَابِ مِنَ اللَّهِ الْعَزِيزِ الْحَكِيمِ ٣٩ مَا خَلَقْنَا
 السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ وَمَا بَيْنَهُمَا إِلَّا بِالْحَقِّ وَأَجَلٍ مُّسَمًّى وَالَّذِينَ
 كَفَرُوا عَمَّا أُنذِرُوا مُعْرِضُونَ ٤٠ قُلْ أَرَأَيْتُمْ مَا تَدْعُونَ مِنْ
 دُونِ اللَّهِ أَرُونِي مَاذَا خَلَقُوا مِنَ الْأَرْضِ أَمْ لَهُمْ شِرْكٌ فِي
 السَّمَوَاتِ أَتُنْفِي بِكِتَابٍ مِّن قَبْلِ هَذَا أَوْ أَثَرَةٍ مِّن عِلْمٍ إِن كُنْتُمْ
 صَادِقِينَ ٤١ وَمَنْ أَضَلُّ مِمَّن يَدْعُوا مِنْ دُونِ اللَّهِ مَنْ
 لَا يَسْتَجِيبُ لَهُ إِلَى يَوْمِ الْقِيَامَةِ وَهُمْ عَن دُعَائِهِمْ غَفِلُونَ ٤٢

الجزء
السادس
والعشرون

33 彼らには不信仰と罪によってこの世でなした悪いことが明らかとなり、警告を受けた際に嘲笑していた災難が降りかかった。

34 アッラーは彼らに仰せられる。「この日の対面をあなたたちが忘れ、信仰と善行で備えなかったように、今日われらはあなたたちを火獄の中に放っておこう。あなたたちの落ち着く先は火獄であり、アッラーの懲罰を押しつけてくれる援助者は誰もいない。

35 あなたたちが苦しむこととなった懲罰は、生前アッラーの印を真に受けず、嘲笑していたからであり、この世の甘美さと欲望に騙されたからである。」今日アッラーの印を馬鹿にした不信仰者が獄火から出ることはなく、永遠に留まる。この世に戻って善行を行い、主に認めてもらえることもないのである。

36 アッラーお独りにのみ称賛はある。天地の主、全ての被造物の主である。

37 かれにこそ天地における威厳と崇高さはあり、威力並びない無敵の御方にして、その創造の御業、計画、配剤、律法において英明な御方であられる。

46. 砂丘章(アル・アハカーフ)

マッカ啓示

本章の趣旨:

人間は啓示を必要としており、それに反対する者への警告

説明:

1 「ハー・ミーム」雌牛章冒頭での既出の解説の通り。

2 クルアーンの啓示は、アッラーという威力並びない無敵の御方かつその定め、配剤、教えにおいて英明な御方からもたらされたものである。

3 われらが天地とその間にあるものを創造したのは、戯れではない。むしろわれらはそれら全てを限りない英知と共に真理によって創造したのである。たとえば、僕たる人間に知らしめることでかれだけを崇め、他には何ものをも配さないようになること。それからアッラーのみが知る期間、地上におけるアッラーの代理人として果たすべきことを果たすことである。だが、信じない者はアッラーの啓典で警告されていることに逆らうが、気にも留めない。

4 使徒よ、真理に逆らう多神教徒に言うがよい。「あなた方がアッラーの他に崇める偶像について聞かせてください。一体、彼らは地上のどの部分を創造しましたか?山を創造しましたか?あるいは川を創造しましたか?あるいは彼らにはアッラーとの間で担当があって、諸天の創造を共同で行いましたか?クルアーン以前にアッラーから啓示されたという啓典を持って来てください。あるいは先達から受け継がれた知の遺産でも構いません。もし本当にあなた方が主張するように偶像が崇拜に値するというのなら。」

5 審判の日に至るまで祈りを聞き遂げることのない偶像をアッラーの他に崇める者以上に迷妄に陥った者はいない。彼らが崇める偶像は、そもそも利することも害することもないのはおろか、崇拜者の祈りに気付くこともないのである。

本諸節の功德:

- アッラーの様々な印を馬鹿にすることは不信仰である。
- この世の快樂と欲望にとられることの危険さ。
- 高慢という性質が至高のアッラーにはあるという確証。(訳注:不完全な人間にとって高慢さは欠点となるが、完全無欠のアッラーにとっては相応しい美德となる)
- 祈りへの応答は、アッラーの存在証明かつアッラーをこそ崇めるべき証拠の最たるものである。

وَإِذَا حُشِرَ النَّاسُ كَانُوا لَهُمْ أَعْدَاءً وَكَانُوا بِعِبَادَتِهِمْ كَافِرِينَ ﴿٦﴾ وَإِذَا
 تَسَاءَلْتُمْ عَنْ آيَاتِنَا بَيِّنَاتٍ قَالِ الَّذِينَ كَفَرُوا الْحَقُّ لِمَا جَاءَهُمْ هَذَا
 سِحْرٌ مُّبِينٌ ﴿٧﴾ أَمْ يَقُولُونَ أَفَنَزَّلَهُ فُلٌ إِنْ أَفْتَرَيْتُهُ، فَلَا تَمْلِكُونَ
 لِي مِنَ اللَّهِ شَيْئًا هُوَ أَعْلَمُ بِمَا تُفْعِلُونَ فِيهِ كَتَبْنَا فِيهِ شَهِيدًا بَيْنِي
 وَبَيْنَكُمْ وَهُوَ الْغَفُورُ الرَّحِيمُ ﴿٨﴾ قُلْ مَا كُنْتُ بِدَعَا مِنْ الرُّسُلِ
 وَمَا أَدْرَى مَا يَفْعَلُ بِي وَلَا بِكُمْ إِنْ أَتَيْتُمْ إِلَّا مَا يُوحَىٰ إِلَيَّ وَمَا أَنَا
 إِلَّا نَذِيرٌ مُّبِينٌ ﴿٩﴾ قُلْ أَرَأَيْتُمْ إِنْ كَانَ مِنْ عِنْدِ اللَّهِ وَكَفَرْتُمْ بِهِ
 وَشَهِدَ شَاهِدٌ مِنْ بَنِي إِسْرَائِيلَ عَلَىٰ مِثْلِهِ فَتَمَنَّوْا أَنْ تَكْفُرُوا
 إِنَّ اللَّهَ لَا يَهْدِي الْقَوْمَ الظَّالِمِينَ ﴿١٠﴾ وَقَالَ الَّذِينَ كَفَرُوا
 لِلَّذِينَ ءَامَنُوا لَوْ كَانَ خَيْرًا مَا سَبَقُونَا إِلَيْهِ وَإِذْ لَمْ يَهْتَدُوا بِهِ
 فَسَيَقُولُونَ هَذَا إِنْ أَفَّاكَ قَدِيمٌ ﴿١١﴾ وَمِنْ قَبْلِهِ كَتَبَ مُوسَىٰ
 إِمَامًا وَرَحْمَةً وَهَذَا كِتَابٌ مُصَدِّقٌ لِمَا نَزَّلْنَا بِتَأْيِيدِ
 الَّذِينَ ظَلَمُوا أَوْ يُسْرَىٰ لِلْمُحْسِنِينَ ﴿١٢﴾ إِنَّ الَّذِينَ قَالُوا رَبُّنَا
 اللَّهُ ثُمَّ اسْتَقَمُوا فَلَا خَوْفٌ عَلَيْهِمْ وَلَا هُمْ يَحْزَنُونَ ﴿١٣﴾
 أُولَئِكَ أَصْحَابُ الْجَنَّةِ خَالِدِينَ فِيهَا جَزَاءً بِمَا كَانُوا يَعْمَلُونَ ﴿١٤﴾

⑥ この世で益をもたらすことができないのに加え、審判の日に蘇らせられれば、かつて自分たちを崇めていた者たちの敵となり、無関係を装って、自分たちが崇められていたことなど知らなかったと言い張るだろう。

⑦ われらの使徒に下された印が読み上げられると、不信仰者はクルアーンについて使徒へ向かって言う。「これは明らかな魔術であって、アッラーからの啓示ではない。」

⑧ これらの多神教徒は、「ムハンマドがこのクルアーンを創作し、アッラーからのものだとしたのだ」と言うのか。使徒よ、彼らに言うがよい。「もし私がこれを自分自身で創作したなら、アッラーが私を罰しようと思われてもあなたたちに私を救う手段はありません。誰が好き好んでその創作で自分を懲罰にさらすでしょうか。あなたたちがどれほどクルアーンを批判し、私を中傷しているかは、アッラーがよりよくご存知です。完全無欠なかれこそ、私とあなたたちの間の証言者としては十分な御方であり、悔い改める者の罪を赦して下さる慈悲深い御方。」

⑨ 使徒よ、あなたが預言者であることを否定する多神教徒に言うがよい。「あなたたちが私の呼びかけに驚くような、アッラーが遣わす使徒としては私が初めての者ではありません。私以前にも数多くの使徒がいました。私はアッラーが私に何をされるかを知っているわけではなく、あなたたちにこの世で何をされるかを知っているわけでもありません。私はただ私に啓示されるものに従うだけです。かれの啓示にのっとったことしか、私が何か言うこともすることはありません。私はただ明らかな警告をもってあなたたちにアッラーの懲罰を伝える警告者に過ぎないのです。」

⑩ 使徒よ、これらの否定者に言うがよい。「もしこのクルアーンがアッラーの御許からもたらされたもので、あなたたちはそれを否定し、イスラエルの民の一人が律法の内容に照らし合わせてそれ(クルアーン)はアッラーからもたらされたものだと言証して信じてなお、高慢にもそれを信じないとしたら、それでもあなたたちは不義をなす人ではないだろうか。」アッラーは真理に反して不義

をなす民を成功には導かれないのである。

⑪ クルアーンと使徒がもたらしたものを否定する者が信者に言った。「もし本当にムハンマドがもたらしたものが善へと導くものであったなら、これらの貧乏人や奴隷、弱者に我々が後れを取ることはなかっただろう。」彼らは使徒がもたらしたものに導かれなかったため、「我々のもとにやってきたのは、古びた嘘だ。我々は嘘には従わない」と言うのである。

⑫ このクルアーン以前には、正しい模範とされるべき指導者かつイスラエルの民のうち、誰であれ信じて従った者への慈悲としてアッラーがムーサーに啓示した律法がある。そしてムハンマドに啓示されたこのクルアーンは、それ以前の啓典をアラビア語によって確証する書であり、アッラーに別のものを神として配し、罪を犯すことで己を欺いた者への警告であると共に、己の主やその被造物との関係において最善を尽くした者にとっての福音である。

⑬ 「我らの主はアッラーであり、他に主はいない」と言い、信仰を持って揺らぐことなく善行に勤しむ者にとっては、あの世を前に恐れはなく、この世の幸運で手に入れ損ねたものや置き去りにしたもので嘆くこともない。

⑭ こうした特徴で描写される者こそ、天国の民としてこの世で果たした善行への報奨を得て、永遠に留まるのである。

本諸節の功德:

- アッラーの他に崇められた者は、彼らを崇めた者を否定する。
- 預言者といえども、アッラーが見せられたものしか幽玄界のことは知らない。
- 過去の啓典の中に、預言者ムハンマドの預言者性を確証するものがある。
- 品行方正であること的美徳とそれを体得した者への報奨。

وَوَصَّيْنَا الْإِنْسَانَ بِوَالِدَيْهِ إِحْسَانًا حَمَلَتْهُ أُمُّهُ كُرْهًا وَوَضَعَتْهُ
 كُرْهًا وَحَمَلُهُ وَفِصْلُهُ ثَلَاثُونَ شَهْرًا حَتَّىٰ إِذَا بَلَغَ أَشُدَّهُ وَوَبَلَغَ
 أَرْبَعِينَ سَنَةً قَالَ رَبِّ أَوْزِعْنِي أَنْ أَشْكُرَ نِعْمَتَكَ الَّتِي أَنْعَمْتَ
 عَلَيَّ وَعَلَىٰ وَالِدَيَّ وَأَنْ أَعْمَلَ صَالِحًا تَرْضَاهُ وَأَصْلِحْ لِي فِي ذُرِّيَّتِي
 إِنِّي تُبْتُ إِلَيْكَ وَإِيبِي مِنَ الْمُسْلِمِينَ ﴿١٥﴾ أُولَٰئِكَ الَّذِينَ تَتَّقُلْ
 عَنْهُمْ أَحْسَنَ مَا عَمِلُوا وَتَتَجَاوَزُ عَنْ سَيِّئَاتِهِمْ فِي أَصْحَابِ
 الْجَنَّةِ وَعَدَّ الصَّدَقَ الَّذِي كَانُوا يُوعَدُونَ ﴿١٦﴾ وَالَّذِي قَالَ
 لَوْلَدِيهِ أُنِيبْ لَكُمْ أَنْتَ عَدِلْنِي أَنْ أُخْرَجَ وَقَدْ خَلَيْتَ الْفُرُونَ مِنْ
 قَبْلِي وَهَمَا يَسْتَغِيثَانِ اللَّهُ وَيَلِكُ ءَامِنْ إِنَّ وَعْدَ اللَّهِ حَقٌّ فَيَقُولُ
 مَا هَذَا إِلَّا أَلَّا سَطِيرُ الْأُولِينَ ﴿١٧﴾ أُولَٰئِكَ الَّذِينَ حَقَّ عَلَيْهِمُ الْقَوْلُ
 فِي أُمَمٍ قَدْ خَلَتْ مِنْ قَبْلِهِمْ مِنَ الْجِنِّ وَالْإِنْسِ إِنَّهُمْ كَانُوا خَسِرِينَ
 ﴿١٨﴾ وَلِكُلِّ دَرَجَاتٍ مِمَّا عَمِلُوا أُولَٰئِكَ الَّذِينَ كَانُوا يُرْتَابُونَ
 وَيَوْمَ يُعْرَضُ الَّذِينَ كَفَرُوا عَلَى النَّارِ أَلَّذِينَ ظَلَمْتُمْ فِي حَيَاتِكُمْ
 الدُّنْيَا وَأَسْتَمْتَعْتُمْ بِهَا فَالْيَوْمَ تُجْرَوْنَ عَذَابَ الْهُونِ بِمَا كُنْتُمْ
 تَسْتَكْبِرُونَ فِي الْأَرْضِ بِغَيْرِ الْحَقِّ وَبِمَا كُنْتُمْ تَكْفُرُونَ ﴿١٩﴾

15 われらは人間に両親への孝行をしかと命じ、二人が
 生きている間に孝行すること、亡くなってからもシャリ
 ーアに反しないかたちで孝行するように命じた。特に
 辛い思いをして身ごもり、大変な思いをして産んでくれ
 た母親に対してはなおのことである。懐妊から離乳ま
 では、30か月である。それから成長して心身ともに成熟
 し、40歳を迎えれば言う。「主よ、私と私の両親にあなた
 が恵んでくださった恩恵に感謝する気持ちを私にお恵
 みください。そしてあなたが喜ぶような善行を行いたい
 という気持ちを私にお恵みください。どうか私の行いを
 受け入れ、私の子供たちをよりよくお導きください。私は
 自分の罪を悔い改め、進んであなたにお仕えし、あなた
 のご命令に従います。

16 これらの者こそ、最善の行いをわれらが受け入れ、悪
 しきところは目に見て咎めはしない者であり、天国の
 民の一員である。これこそ誠実な約束として約束された
 ものであり、確実に実現されるものである。
 親孝行の勧めとして孝行者のたとえが挙げられると、親
 不孝の戒めとして親不孝者のたとえが挙げられる。

17 中には両親に対して、「滅んでしまえ。私の死後墓から
 出されると約束しようというのか。何世紀も経って多くの
 人が死んでなお誰一人として生きて蘇った者などいな
 いというのに」と言う者すらある。その両親はアッラーか
 らの助けを求め、息子を信仰へと導いて下さるように祈
 り、息子に言う。「復活を信じなければ滅んでしまうから
 信じなさい。本当に復活というアッラーの約束は疑いの
 ない真理です。」ところが彼は改めて復活を否定しつつ
 言うのである。「復活として言われるのは、先祖から伝わ
 る伝説に過ぎない。アッラーからのものだ」という確証な
 どない。

18 これらの者こそ、人間とジンの過去の共同体と同じく
 懲罰が確定となった者である。彼らは損失者である。自
 分自身と家族の獄火入りで己を損なったからである。

19 天国行きと火獄行きの二つの集団のどちらにもその
 行いに応じた位階がある。天国の民の位階は高みへと
 昇る位階であり、火獄の民の位階は落ち行く下りの位階
 である。アッラーは彼らの行いにしかと報いてくださり、審判の日にその善行を減らされたり、あるいは悪行を増やされたりする不
 義を受けることはない。

20 アッラーを信じようとせず、その使徒たちを否定した者が罰を受けるために炎にさらされる日、「あなたたちは生前良いものを与
 えられ、悦楽を楽しんだらう。だが今日は、屈辱的な懲罰の報いを受けるのだ。それはあなたたちが地上で正当な権利もなく高
 慢な態度を取ったからである。不信仰と罪深い行いによりアッラーへの忠誠からはみ出したために、辱めが与えられるのだ」と彼ら
 を非難して言われるだらう。

本諸節の功德:

- イスラームにおける親孝行、特に母親への孝行の大切さの明示と親不孝への注意喚起。
- この世の悦楽を求め過ぎると、あの世への備えがおざなりになるため危険である。
- 高慢で行いのよくない者に対する厳しい警告。

*وَأَذْكُرُ أَخَاعَادٍ إِذْ أَنْذَرَ قَوْمَهُ بِالْأَحْقَافِ وَقَدْ خَلَّتِ النَّذُرُ
 مِنْ بَيْنِ يَدَيْهِ وَمَنْ خَلْفَهُ إِلَّا نَعْبُدُ وَإِلَّا اللَّهُ إِلَهِي أَخَافُ عَلَيْكُمْ
 عَذَابَ يَوْمٍ عَظِيمٍ ﴿٣١﴾ قَالُوا أَجِئْتَنَا لِنَأْفِكَنَّ عَنْ إِلَهِنَا فَاتَّبَعْنَا
 بِمَا تَعَدُّنَا إِنْ كُنْتُمْ مِنَ الصَّادِقِينَ ﴿٣٢﴾ قَالَ إِنَّمَا الْعِلْمُ عِنْدَ اللَّهِ
 وَأُبَلِّغُكُمْ مَا أُرْسِلْتُ بِهِ وَلَكِنِّي أَرَىكُمْ قَوْمًا تَجْهَلُونَ ﴿٣٣﴾ فَلَمَّا
 رَأَوْهُ عَارِضًا مُسْتَقْبِلَ أَوْدِيَّتِهِمْ قَالُوا هَذَا عَارِضٌ مُمْطِرُنَا
 بَلْ هُوَ مَا اسْتَعْجَلْتُمْ بِهِ رَيحٌ فِيهَا عَذَابٌ أَلِيمٌ ﴿٣٤﴾ تَدْمَرُ كُلَّ
 شَيْءٍ بِأَمْرِ رَبِّهَا فَأَصْبَحُوا لَا يُرَى إِلَّا مَسَكِنُهُمْ كَذَلِكَ نَجْزِي
 الْقَوْمَ الْمُجْرِمِينَ ﴿٣٥﴾ وَلَقَدْ مَكَنَّا لَهُمْ فِي مَآئِنَ مَكَانِكُمْ فِيهِ
 وَجَعَلْنَا لَهُمْ سَمْعًا وَأَبْصَارًا وَأَفْئِدَةً فَمَا أَغْنَى عَنْهُمْ سَمْعُهُمْ
 وَلَا أَبْصَرُهُمْ وَلَا أَفْئِدَتُهُمْ مِنْ شَيْءٍ إِذْ كَانُوا يَجْحَدُونَ بِآيَاتِ
 اللَّهِ وَحَاقَ بِهِمْ مَا كَانُوا بِهِ يَسْتَهْزِئُونَ ﴿٣٦﴾ وَلَقَدْ أَهْلَكْنَا
 مَا حَوَّلَكُمْ مِنَ الْفَرَسِيِّ وَصَرَفْنَا الْآيَاتِ لَعَالَهُمْ يَرْجِعُونَ ﴿٣٧﴾
 فَلَوْلَا نَصْرُهُمُ الَّذِينَ اتَّخَذُوا مِنْ دُونِ اللَّهِ قُرْبَانًا آلِهَةً
 بَلْ ضَلُّوا عَنْهُمْ وَذَلِكَ إِفْكُهُمْ وَمَا كَانُوا يَفْتَرُونَ ﴿٣٨﴾

21) 使徒よ、アードの民と血のつながった(預言者)フード
 について、彼がその民にアッラーの懲罰へ陥らないよう
 警告したときのことを語るがよい。そのとき彼らは、アラ
 ビア半島の南の砂丘にある住まいにいた。フードの前にも
 後にも使徒がそれぞれの民に警告者として遣わされて
 言ったものである。「アッラーお独りの他には何ものをも
 崇めてはなりません。わが民よ、偉大な日(すなわち審
 判の日)の懲罰があなたたちに降りかかるのが心配で
 す。」

22) 彼の民は言った。「我々の神々から我々を離れさせる
 ために来たのか。そんなことには決してならない。お前
 の主張が正しいというのなら、お前が約束する懲罰とやら
 を持ってきてみせよ。」

23) 「その懲罰の時を知るのはアッラーであり、私がそれ
 を知っているわけではありません。私はただの使徒であり、
 あなたたちに伝えるべく遣わされたものを伝えるの
 みです。しかしながら、あいにくあなたたちは愚かな民の
 ようです。役立つものを捨て置き、害となるものをもたら
 そうとするのですから。」

24) 彼らが急かした懲罰がやってくると、谷間に向かっ
 て押し寄せる雲を見上げて言うのだった。「これは雨雲
 だ。」だがフードは言った。「あなたたちが思うようなもの
 とは違います。これは雨雲ではなく、あなたたちが急か
 した懲罰であって、痛ましい懲罰を伴う風なのです。」

25) アッラーが減びを命じられたものは全て、それが通り
 かつたことで崩壊し、夜明けには滅び去った。かつて
 はそこにも人がいたということの証として、家しか他には
 見当たらなくなったのである。このように痛ましい懲罰で
 もってわれらは不信仰と罪深い行いをわざとする罪人
 に報いるのである。

26) われらはフードの民にあなたたちには与えていない

ほどの制圧の術を与えた。彼らには聞く聴覚と見る視覚、考える心をもたらししたが、その聴覚や視覚、心は何の役にも立たなかつた。彼らはアッラーの様々な印を嘘と否定したため、アッラーの懲罰がやってきたときに自分たちを防ぐこともできず、彼らに遣わされた預言者フードが警告しつつも嘲笑するだけであつた懲罰が下つたのである。

27) マッカの民よ、われらはあなたたちの周りの村々を滅ぼしたのである。アードやサムード、ルートの民やマドヤンの民を滅ぼした。願わくは彼らが不信仰から立ち返ることができるようにとさまざまな証拠を与えはしたが。

28) 信仰行為や犠牲を捧げて近づこうとする、アッラー以外に神々とした偶像が助けてくれればよかつたのだが、もちろん助けることはなく、最も助けを必要とするときに不在だったのである。それが彼らの嘘であり、これらの偶像が助けてくれ、アッラーの御許で執り成してくれると勝手に期待した作り話なのである。

本諸節の功德:

- 使徒といえども、主が見せられたもの以外は幽玄界のことは知らない。
- フードの民は懲罰を雨と思い込むほど傲慢で、突然の襲撃を受ける前に悔い改めることをしなかつた。
- アードの民の力はマッカの民よりも優れていたが、アッラーは彼らを滅ぼした。
- 理性ある者は他人を見て教訓を得るが、無知な者は自分で経験してみないと教訓を得られない。

②⑨使徒よ、あなたのもとにわれらがジンの一団を遣わし、あなたに啓示されたクルアーンに聞き入れたときのことを語るがよい。彼らは集まったときにお互いに言った。「よく聞こえるようお静かに。」使徒が読誦を終えると彼らは自分たちの民のもとに戻り、このクルアーンを信じないとアッラーの懲罰を受けるはめになるぞと警告したのだった。

③⑩彼らは言った。「我らが民よ、我々は確かにアッラーがムーサーの後に啓示され、アッラーの御許より啓示された以前の啓典を確認する書を聴いた。我々が聴いたこの書は真理へと導き、正道すなわちイスラームの道へと導いてくれるものだ。」

③⑪「我らが民よ、ムハンマドがあなたたちに呼びかける真理に応え、彼が主から遣わされた使徒であることを信じるのだ。そうすればアッラーはあなたたちの罪を赦してくださり、もしあなたたちが真理の呼びかけに応えず彼を使徒として信じなかったなら待ち受けていることになるだろう痛ましい懲罰から救って下さるだろう。」

③⑫ムハンマドの真理の呼びかけに応えない者を、アッラーが地上で取り逃がすことはなく、アッラーの他に懲罰から救ってくれる親しい友はいない。これらの者が真理から遠く迷い去っているのは明らかである。

③⑬復活を否定するこれらの多神教徒は、アッラーこそが天地を創造し、広大なそれらのものを創るうえで少しも弱音を吐かなかった御方なのだから、清算と応報のために死者を生き返らせることもできないとは思わないのか。もちろん可能であり、かれには死者を復活させることはおろか、何でもできるのである。

③⑭アッラーとその使徒たちを否定した者たちが罰を受けるために炎にさらされる日、彼らを非難して言われるだろう。「今日の前になっている懲罰は真実ではないだろうか。あるいはあなたたちがこの世で言っていたように嘘だろうか。」彼らは言う。「確かに、我らが主よ、これは真実です。」すると言われるのだ。「あなたたちがアッラーを信じなかった報いとして、懲罰を味わうがよい。」

③⑮使徒よ、使徒たちの中でも強固な意志を持った者たち、すなわちヌーフやイブラーヒーム、ムーサーやイーサーが耐え忍んだように、あなたの民があなたを否定するのに耐え忍び、罰を急いてはならない。真理を否定する者は、あの世で約束されていた懲罰を目の当たりにする日、懲罰のあまりの長さに、この世には日中一時間ほどしかいなかったかのように感じるだろう。ムハンマドに啓示されたこのクルアーンは、人間とジンにとって十分な伝達である。不信仰と罪深い行いでアッラーへの忠誠からはみ出した民の他は、懲罰で滅ぼされることはない。

本諸節の功德:

- 話者に耳を傾け、注意して聞き入ることは、礼節の一つである。
- ジンの一団で導かれた者たちが素早く真理に応じたのは、人間にそれを見習うようにとの奨励のメッセージである。
- 真理に応じるとは、その呼びかけに急いで応じることである。
- 辛抱は預言者たちの仁徳である。

سُورَةُ الْحَقِّافِ
الْحَقِّافِ ٤٧
الْباقِيَاتِ ٢٨

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

الَّذِينَ كَفَرُوا وَاصَدُّوا عَنْ سَبِيلِ اللَّهِ أَصَلَ اللَّهُ أَعْمَلَهُمْ ⑤ وَالَّذِينَ
ءَامَنُوا وَعَمِلُوا الصَّالِحَاتِ وَءَامَنُوا بِمَائِزِلِ عَلِيِّ مُحَمَّدٍ وَهُوَ الْحَقُّ مِنْ
رَبِّهِمْ كَفَرُوا عَنْهُمْ سَيِّئَاتِهِمْ وَأَصْلَحَ بَالَهُمْ ⑥ ذَلِكَ بِأَنَّ الَّذِينَ كَفَرُوا
اتَّبَعُوا الْبَاطِلَ وَأَنَّ الَّذِينَ ءَامَنُوا اتَّبَعُوا الْحَقَّ مِنْ رَبِّهِمْ كَذَلِكَ يَضْرِبُ
اللَّهُ لِلنَّاسِ أَمْثَلَهُمْ ⑦ فَإِذَا لَقِيتُمُ الَّذِينَ كَفَرُوا فَضَرْبِ الرِّقَابِ حَتَّى
إِذَا أَتَخْتَمُوهُمُ فَشُدُّوا أَوْلِيَانًا فَمَا مَتَابَعُدْ وَإِمَّا فِدَاءٌ حَتَّى تَضَعَ الْحَرْبُ
أُوزَارَهَا ذَلِكَ وَلَوْ يَشَاءُ اللَّهُ لَانتَصَرْنَا مِنْهُمْ وَلَكِنْ لِيَبْلُو أَعْضَكُمْ
بِعِضٍ وَالَّذِينَ قُتِلُوا فِي سَبِيلِ اللَّهِ فَلَنْ يُضِلَّ أَعْمَالَهُمْ ⑧ سَيَهْدِيهِمْ
وَيُصْلِحُ بَالَهُمْ ⑨ وَيُدْخِلُهُمُ الْجَنَّةَ عَرَّفَهَا لَهُمْ ⑩ يَا أَيُّهَا الَّذِينَ
ءَامَنُوا إِنْ تَصْرَفُوا اللَّهَ بِنَصْرِكُمْ وَيُؤْتِيَنَّكُمْ أَفْدَاكُمْ ⑪ وَالَّذِينَ كَفَرُوا
فَتَعَسَى لَهُمُ وَاصِلٌ أَعْمَلَهُمْ ⑫ ذَلِكَ بِأَنَّهُمْ كَرِهُوا مَا أَنْزَلَ اللَّهُ
فَأَحْبَطَ أَعْمَالَهُمْ ⑬ أَفَلَمْ يَسِيرُوا فِي الْأَرْضِ فَيَنْظُرُوا كَيْفَ كَانَ
عَاقِبَةُ الَّذِينَ مِنْ قَبْلِهِمْ دَمَّرَ اللَّهُ عَلَيْهِمْ وَلِلْكَافِرِينَ أَمْثَلُهَا ⑭ ذَلِكَ
بِأَنَّ اللَّهَ مَوْلَى الَّذِينَ ءَامَنُوا وَأَنَّ الْكُفْرِينَ لَا مَوْلَى لَهُمْ ⑮

المؤمنون

本章の趣旨:

彼らの士気を高め、不信仰者の気力を削ぐために、信者たちを戦闘に鼓舞すること。

説明:

①アッラーを信じようとせず、人々をアッラーの教えから遠ざけようとする者には、アッラーはその行いを無効にしてしまわれる。

②アッラーを信じ、善行を行い、アッラーがその使徒ムハンマドに啓示された主からの真理を信じた者には、悪しき行いの埋め合わせをしてくださり、それで咎められることはなく、この世とあの世の万事をより良いものとして下さる。

③これら二つの集団が得る報奨が違うのは、一方はアッラーを信じようとせず虚偽に従ったからであり、他方はアッラーとその使徒を信じて主の御許からもたらされた真理に従ったからである。それぞれ求めたものが違ったために、報いも異なるものとなったのである。アッラーがその二つの集団を信者の集団と不信仰者の集団とに分け定めたのを明らかにされたのは、人々のために例えを挙げられるためだった。似た者も同様である。

④信者よ、不信仰者の戦闘員に出くわしたならば、あなたたちの剣で彼らの首を打ちつけるがよい。彼らの犠牲者が増え、戦意を失うまで戦いを続けるのだ。彼らの犠牲者を増やすことができたなら、捕虜をしかと捉えておくがよい。捕虜にした者はあなたたちの便宜に応じて見返りなしに解放という恩赦を与えてもよし、金品やその他の見返りと共に解放するもよしの選択次第である。不信仰者がムスリムとなるか(和平の)誓約を結ぶまで、戦い続け、捕虜を取り続けよ。信者が不信仰者によって試練を受け、お互いに勝ち負けする日々が繰り広げられるという先述の事柄は、アッラーの定めである。もしアッラーが戦闘なしに不信仰者への勝利を望まれたならば、勝利しただろう。しかしながらかれはあなたたちをお互いに

試すためにジハードを合法とし、信者の中で参戦する者とそうでない者を試し、不信仰者を信者で試される。不信仰者が信者を殺せば、信者は天国に入り、信者が不信仰者を殺せば、不信仰者は火獄に入る。アッラーの道において殺された者は、その行いを無駄にされることはない。

⑤かれは彼ら(信者たち)をこの世で真理に従えるように成功させてくださり、万事をより良きものとして下さる。

⑥審判の日に天国に入れてくださり、この世ですでにその特徴を明らかにしてくださっていたのですぐにそれとわかり、あの世での居場所を知らせられる。

⑦アッラーを信じてその教えを実践する者よ、その預言者や教えを助け、不信仰者と戦うことでアッラーを助ける者はアッラーが助けてくださり、あなたたちに敵への優勢をもたらし、戦争において敵と遭遇したときに足元を固めて下さるだろう。

⑧アッラーとその使徒を信じない者には、損失と破滅があり、アッラーは彼らの行いの報奨を無効にされる。

⑨そうした懲罰が下されるのは、アッラーが使徒に啓示したクルアーンにアッラーへの純粋な信仰が謳われているのを彼らが嫌ったからである。そうしてアッラーは彼らの行いを貶めてしまわれ、彼らはこの世でもあの世でも損失をこうむることになった。

⑩これらの否定する者たちは、地上を旅して彼ら以前に(真理を)否定した者の結末がどんなであったかを見ないのか。それは痛ましい結末であった。アッラーは彼らの住まいを破壊され、彼らを滅ぼし、彼らの子孫や財産をも滅ぼされたのである。不信仰者には、どの時代や場所であれ、このような懲罰が待っているのだ。

⑪そうした報いが二つの集団にある。なぜならアッラーは信じる者を助ける御方であり、不信仰者に援助者はいないからである。

本諸節の功德:

●敵を殺害で脅かすのは、彼らを震え上がらせるうえで最良の手段である。

●恩赦、見返り、処刑、奴隸化等はイスラームにおける不信仰者の捕虜を取り扱う選択肢であり、便宜に応じて選ばれる。

●アッラーの道における殉教の美德は偉大である。

●信者にとつてのアッラーの助けは、彼らがその教えを助けてこそ条件付きである。

إِنَّ اللَّهَ يُدْخِلُ الَّذِينَ آمَنُوا وَعَمِلُوا الصَّالِحَاتِ جَنَّاتٍ تَجْرِي مِنْ
 تَحْتِهَا الْأَنْهَارُ وَالَّذِينَ كَفَرُوا يَتَمَتَّعُونَ وَيَأْكُلُونَ كَمَا تَأْكُلُ الْأَنْعَامُ
 وَالنَّارُ مَشْوَى لَهُمْ ﴿١٣٦﴾ وَكَانَ مِنْ قَوْمِهِ هِيَ أَشَدُّ قُوَّةً مِنْ قَوْمِكَ
 الَّتِي أَخْرَجْتَكَ أَهْلَكَهُمْ فَلَا نَاصِرَ لَهُمْ ﴿١٣٧﴾ أَفَمَنْ كَانَ عَلَى بَيْتِنَا مِنْ
 رَبِّهِ كَمَنْ زُيِّنَ لَهُ وَسُوءَ عَمَلِهِ وَاتَّبَعُوا أَهْوَاءَهُمْ ﴿١٣٨﴾ مِثْلَ الْجَنَّةِ الَّتِي
 وَعِدَ الْمُتَّقُونَ فِيهَا أَنْهَارٌ مِنْ مَاءٍ غَيْرِ آسِنٍ وَأَنْهَارٌ مِنْ لَبَنٍ لَمْ يَتَغَيَّرْ
 طَعْمُهُ وَأَنْهَارٌ مِنْ حَمْرٍ لَذَّةٍ لِلشَّرَابِ وَأَنْهَارٌ مِنْ عَسَلٍ مُصَفًّى وَلَهُمْ
 فِيهَا مِنْ كُلِّ الثَّمَرَاتِ وَمَعْفَرَةٌ مِنْ رَبِّهِمْ كَمَنْ هُوَ خَالِدٌ فِي النَّارِ وَسُقُوا
 مَاءً حَمِيمًا فَقَطَّعَ أَمْعَاءَهُمْ ﴿١٣٩﴾ وَمِنْهُمْ مَنْ يَسْتَمِعُ إِلَيْكَ حَتَّى إِذَا
 خَرَجُوا مِنْ عِنْدِكَ قَالُوا لِلَّذِينَ أُوتُوا الْعِلْمَ مَاذَا قَالَ أَإِنَّمَا لَوْلَا
 الَّذِينَ طَعِبَ اللَّهُ عَلَى قُلُوبِهِمْ وَاتَّبَعُوا أَهْوَاءَهُمْ ﴿١٤٠﴾ وَالَّذِينَ أَهْتَدُوا
 زَادَهُمْ هُدًى وَآتَاهُمْ تَقْوَاهُمْ ﴿١٤١﴾ فَهَلْ يَنْظُرُونَ إِلَّا السَّاعَةَ
 أَنْ تَأْتِيَهُمْ بَغْتَةً فَقَدْ جَاءَ أَشْرَاطُهَا فَأَنَّى لَهُمْ إِذَا جَاءَهُمْ
 ذِكْرُهُمْ ﴿١٤٢﴾ فَأَعْلَمَ أَنَّهُ لَا إِلَهَ إِلَّا اللَّهُ وَاسْتَغْفَرَ لِذَنبِكُمْ
 وَلِلْمُؤْمِنِينَ وَالْمُؤْمِنَاتِ وَاللَّهُ يَعْلَمُ مُتَقَلِّبِكُمْ وَمُتَوَلِّكُمْ ﴿١٤٣﴾

132 アッラーとその使徒を信じてよい行いをした者をアッラーは城下や木々の下を川が流れる天国に入れて下さる。一方、アッラーとその使徒を信じようとせず、欲の赴くままにこの世を楽しみ、動物のように食べ、食欲と性欲を満たすことしか関心のない者は、火獄こそが審判の日に行き着く先の住まいとなるのである。

133 過去の共同体のうち、どれほど多くの村があなたを追い出したマッカよりも権勢や財産、子孫において優れていながら、遣わされた使徒を否定したためにわれらが滅ぼしたここか。いざアッラーの懲罰がやってきたときに、彼らを助けてくれる援助者はいなかった。だからわれらが望みさえすれば、マッカの民を滅ぼすことも容易いのである。

134 主からの明らかな確証を持ち、心眼に基づいてかれを崇める者が、悪魔がその悪しき行いを飾り立て、偶像崇拜や罪を犯すこと、使徒を否定することなど、我欲の言いなりになる者と同じということがあろうか。

135 アッラーのご命令を果たし、禁止を避けることでかれを意識する者たちにアッラーが約束された天国の特徴は、どれだけ留まったとしても匂いも味も変わらない水からなる川があり、味の変わらないミルクからなる川もあり、飲む人に美味しいだけの酒からなる川や混じり気のない蜂蜜からなる川もある。またそこには望むだけのありとあらゆる果物があり、そして何よりもアッラーに罪を全て帳消しにしてもらえ、咎められることはない。果たしてこの報奨を得る人と、火獄の中からずっと逃げ出せないまま、煮えたぎる熱湯を飲まされ、あまりの熱さに大腸が断ち切れてしまう人が等しいことがあろうか。

136 使徒よ、偽信者の中には反抗心を抱きながらあなたの話を聞く者がいる。これらの者こそ、アッラーがその心に蓋をしてしまわれ、善がそこにたどり着くことはなく、我欲に従うことで真理が見えなくなってしまった者である。

137 だが、真理の道と使徒がもたらしたもののへの恭順に導かれた者には、主が導きと善良さを増してくださり、火獄からの救いとなる善行を促して下さる。

138 果たして不信仰者は、その時(審判の日)が前触れなしに突然やって来るのを待つのか。すでにその兆候は現れたのである。その一つが彼(ムハンマド)が遣わされたことや月が割れたことだが、彼らはその時が来たとき一体どのように思い起こすというのか。

139 使徒よ、アッラーの他に本当に崇められるべき存在はないと確信せよ。そしてアッラーにあなたの罪や男女の信者の罪を赦してもらえよう願うのがよい。アッラーはあなたたちの日中の行動や夜間の滞在を知っておられ、かれに不明なことは何一つないのである。

本諸節の功德:

- 不信仰者の関心は儂いこの世の享楽だけである。
- 理性ある者は信者となり、愚か者は不信仰者となることを選ぶように、信者の報奨と不信仰者の報いを照らし合わせることで、両者の大きな違いが明らかになる。
- 偽信者がアッラーの使徒に対していかに失礼な態度をとるか。
- 言動の前に知るべきである。

وَيَقُولُ الَّذِينَ آمَنُوا لَوْلَا نَزَلَتْ سُورَةٌ فَإِنَّا نَزَلَتْ سُورَةٌ مُّحْكَمَةٌ وَذُكِرَ فِيهَا الْقِتَالُ رَأَيْتَ الَّذِينَ فِي قُلُوبِهِمْ مَرَضٌ يَنْظُرُونَ إِلَيْكَ نَظَرَ الْمَغْشِيِّ عَلَيْهِ مِنَ الْمَوْتِ فَأُولَئِكَ لَهُمْ طَاعَةٌ وَقَوْلٌ مَعْرُوفٌ فَإِنَّا عَزَمْنَا الْأَمْرَ فَلَوْ صَدَقُوا اللَّهَ لَكَانَ خَيْرًا لَّهُمْ ﴿٢٠﴾ فَهَلْ عَسَيْتُمْ إِن تَوَلَّيْتُمْ أَن تُفْسِدُوا فِي الْأَرْضِ وَتَقَطِّعُوا أَرْحَامَكُمْ ﴿٢١﴾ أُولَئِكَ الَّذِينَ لَعَنَهُمُ اللَّهُ فَأَصَمَّهُمْ وَأَعَمَّى أَبْصَرَهُمْ ﴿٢٢﴾ أَفَلَا يَتَذَكَّرُونَ الْفِتْرَانَ أَمْ عَلَى قُلُوبٍ أَقْفَالُهَا ﴿٢٣﴾ إِنَّ الَّذِينَ آذَنُوا وَعَمِلُوا زُبُورًا هُمْ فِي غَمٍّ مِّن بَعْدِ مَا تَبَيَّنَ لَهُمُ الْهُدَى الشَّيْطَانُ سَوَّلَ لَهُمْ وَأَمْلَى لَهُمْ ﴿٢٤﴾ ذَلِكَ بِأَنَّهُمْ قَالُوا لِلَّذِينَ كَرِهُوا مَا نَزَّلَ اللَّهُ سَنَطِيعُكُمْ فِي بَعْضِ الْأَمْرِ وَاللَّهُ يَعْلَمُ إِسْرَارَهُمْ ﴿٢٥﴾ فَكَيْفَ إِذَا تَوَفَّيْتَهُمُ الْمَلَائِكَةُ يَضْرِبُونَ وُجُوهَهُمْ وَأَذْبَرَهُمْ ﴿٢٦﴾ ذَلِكَ بِأَنَّهُمْ اتَّبَعُوا مَا آسَخَطَ اللَّهُ وَكَرِهُوا رِضْوَانَهُ فَآخَبَطْ أَعْمَالَهُمْ ﴿٢٧﴾ أَمْ حَسِبَ الَّذِينَ فِي قُلُوبِهِمْ مَرَضٌ أَن لَّن يُخْرِجَ اللَّهُ أَصْفَانَهُمْ ﴿٢٨﴾

20) アッラーを信じ、戦いについての規定を含む章句が使徒にアッラーから啓示されることを願う者たちは言う。「戦いについて言及された章句をアッラーは啓示してくだらないだろうか。」そしていざアッラーが戦いについての規定や明示を含む明確な章句を啓示されると、使徒よ、心に疑念を抱く偽信者たちが恐怖のあまり卒倒しそうな目であなたを見るのがわかるだろう。だからアッラーは戦いを恐れて尻込みする彼らに懲罰が訪れるのは近いと警告された。

21) アッラーの命に従い、下品ではない良識ある言葉を口にするほうが良い。そしてもし戦いが義務付けられ、激しさが増しても、彼らがアッラーへの信仰に誠実であろうとし、よく従おうとすることは、偽善やアッラーの命に背くことよりも良いのである。

22) アッラーへの信仰と恭順に背いてしまうと、大抵の場合は地上を不信仰と罪で荒廃させ、イスラーム以前の無明時代にあなたたちがそうであったように親族のつながりを絶ってしまうだろう。

23) 地上の荒廃と親族関係の断絶で言い表されるこれらの者こそ、アッラーがそのお慈悲から遠ざけ、受け入れと恭順の聴き方で真理に耳を傾けられないよう耳を聞こえなくさせ、教訓を得ようという目で見られないよう目が見えないようにされた者である。

24) これらの反逆者は、そろそろクルアーンを吟味し、その内容を熟考してみようとはしないのか。もしそれを吟味することができれば、全ての善良なものを指示してくれ、全ての悪を遠ざけてくれるのに。あるいは彼らの心にはすでに蓋がされており、啓発も届かず、訓戒も役に立たないのか。

25) 証明がなされ、預言者の誠実さが明らかになったあとで不信仰と偽善により信仰に背いた者は、悪魔に唆されて不信仰や偽善を飾り立てられ、それらを容易いものとされ、根拠のない樂觀で期待を持たせられたのである。

26) 彼らに起きた迷妄は、使徒に啓示が下されたのを快く思わない多神教徒へ秘密の話として次のように言ったからである。「戦いの手を休めることなど、いくつかあなたたちに従いましょう。」だが、アッラーは彼らの隠すことも公にすることも知っておられる。**かれ**にとって不明なものは何一つなく、お望みのことをその使徒に見せられるのである。

27) 使命を受けた天使たちが彼らの魂を掴むとき、懲罰や厳しい状況にあるのをどう見るだろうか。鉄のハサミで顔や背中を叩かれる様である。

28) そうした懲罰は彼らが不信仰や偽善やアッラーとその使徒への反抗など、アッラーを怒らせることに従い、アッラーを信じてその使徒に従うことなど、主に近づき、お喜びを得られることを嫌がったからであり、**かれ**は彼らの行いを無効にしてしまわれるだろう。

29) 偽善者で疑念を抱く者は、アッラーが彼らの憎悪を取り出して明らかにするとは思わないのか。**かれ**はきっと試練をもってそれを取り出すだろう。信仰の誠実な者と嘘つきを際立てさせ、信者を明らかにし、偽善者を暴くためである。

本諸節の功德:

- アッラーの道におけるジハードの義務遂行は、信者の列にいる偽善者を際立たせる。
- アッラーの書を吟味することの大切さと、それに違反することの危険性。
- 地上を荒廃させ、親族の関係を絶つことは、成功を減らし、アッラーのお慈悲から遠ざかる原因となる。

وَلَوْ نَشَاءُ لَأَرَيْنَاكَ كَهُمْ فَاعْرِفْتَهُمْ بِسِمَتِهِمْ وَانْتَعِرْ فَنَهْمُ فِي
 لَحْنِ الْقَوْلِ وَاللَّهُ يَعْلَمُ أَعْمَالَكُمْ ﴿٣٥﴾ وَلَنَبْلُوَنَّكَ حَتَّىٰ نَعْلَمَ
 الْمُجَاهِدِينَ مِنْكُمْ وَالصَّابِرِينَ وَنَبْلُوَنَّكَ أَخْبَارَكَ ﴿٣٦﴾ إِنَّ الَّذِينَ
 كَفَرُوا وَصَدَّوْا عَنْ سَبِيلِ اللَّهِ وَشَاقُّوا الرَّسُولَ مِنْ بَعْدِ
 مَا بَيَّنَّ لَهُمُ الْهُدَىٰ لَنَ يُصْرُوا وَاللَّهُ شَهِيدٌ عَلَىٰ سَيِّئَاتِهِمْ
 ﴿٣٧﴾ يَا أَيُّهَا الَّذِينَ ءَامَنُوا أَطِيعُوا اللَّهَ وَأَطِيعُوا الرَّسُولَ
 وَلَا تَبْطُلُوا أَعْمَالَكُمْ ﴿٣٨﴾ إِنَّ الَّذِينَ كَفَرُوا وَصَدَّوْا عَنْ سَبِيلِ
 اللَّهِ ثُمَّ مَاتُوا وَهُمْ كَمَا زُفَرُوا فَلَنَ يَغْفِرَ اللَّهُ لَهُمْ ﴿٣٩﴾ فَلَا تَهِنُوا
 وَتَدْعُوا إِلَى السَّلَامِ وَأَنْتُمْ بِالْأَعْلَانِ وَاللَّهُ مَعَكُمْ وَلَنَ يَسْتَكْفِرَ
 أَعْمَالَكُمْ ﴿٤٠﴾ إِنَّمَا الْحَيَاةُ الدُّنْيَا لَعِبٌّ وَلَهُوَ وَإِن تَوَّابُونَ ﴿٤١﴾ وَتَتَّقُوا
 يُؤْتِكُمْ أَجْرَكُمْ وَلَا يَسْئَلْكُمْ أَمْوَالَكُمْ ﴿٤٢﴾ إِن يَسْئَلْكُمْوهَا
 فِي حِفْظِكُمْ تَبْخَلُوا وَيُخْرِجْ أَصْغَرَكُمْ ﴿٤٣﴾ هَذَا نَسْتُمْ هَلْؤَلَاءِ
 تُدْعُونَ لِنُفْسِكُمْ فِي سَبِيلِ اللَّهِ فَمِنْكُمْ مَن يَبْخَلْ وَمَنْ يَبْخَلْ
 فَإِنَّمَا يَبْخَلْ عَن نَّفْسِهِ وَاللَّهُ الْغَنِيُّ وَأَنْتُمُ الْفُقَرَاءُ وَإِن
 تَتَوَلَّوْا يَسْتَبَدِلْ قَوْمًا غَيْرَكُمْ ثُمَّ لَا يَكُونُوا أَمْثَلَكُمْ ﴿٤٤﴾

③⑩使徒よ、もしわれらがあなたに偽善者を知らせたいと望んだならば、それが誰かを知らせただろうし、あなたには彼らの特徴や話し方でそれが誰かがわかっただろう。アッラーはあなたたちの行いを知っておられ、何一つ不明なことはなく、行いに応じて報いられるのである。

③⑪信者よ、アッラーの道において懸命に努力する者や敵との戦いにおいて辛抱強い者を知るため、ジハードや敵との戦いを通してわれらはあなたたちを試すだろう。試練を通して、あなたたちのうち誠実な者と嘘つきとがわかるだろう。

③⑫アッラーとその使徒を信じようとせず、自分自身をアッラーの教えから遮り、他の人も遮ろうとし、預言者であることが明らかになったのちに使徒に反抗する者は、アッラーが迷わすわけではなく、自分で自分を迷わせるのである。アッラーは彼らの行いを無効にしてしまわれるだろう。

③⑬アッラーを信じ、定められたことを実践する者よ、アッラーとその使徒のご命令を果たし、その禁止を避けることで従うがよい。不信仰と見栄で善行を無駄にしてはならない。

③⑭アッラーを信じようとせず、自分自身や人々をアッラーの教えから遠ざけようとする者で、悔い改める前に不信仰のまま死んだ場合、アッラーはその者の罪を覆い隠して大目に見てくださることはされず、むしろその罪を咎め、火獄に入れて永遠にそこに住まわせるだろう。

③⑮だから信者よ、敵と向き合ううえで弱音を吐いてはならない。彼らが和議を求めるまでは、和議を求めてはならない。あなたたちこそが彼らより優勢に立ち制圧する者であって、アッラーがそのお助けで共にいて下さるのである。あなたたちの行いの報奨が減ることはなく、ただただかれがその寛大さにより恩恵を増して下さるだろう。

③⑯この世の暮らしは、遊びと戯れである。だから理性ある者はあの世のための行いに勤しみ、この世に囚われてはならない。アッラーとその使徒を信じ、ご命令を果たして禁止を避けることでかれを意識すれば、あなたたちの行いへの報奨を少しも減ることなく与えて下さるだろう。またかれはあなたたちに財産の全てを求められるわけではなく、定められた義務付けられる分だけである。

③⑰もしかれが財産の全てを要求し、執拗にそれを求めたなら、あなたたちは出し惜みをしてかれのために費やすのを嫌がる気持ちを表しただろう。だからかれはあなたたちを慮ってそれを求めはしないのである。

③⑱ここであなたたちは、アッラーの道において財産の一部を費やすよう呼びかけられている。かれが求めておられるのは、財産全てではない。中には求められた出費をケチる者もあるが、アッラーの道における出費をケチる者は、実際は出費の報奨を自らに禁じることで自分自身にケチっているのである。そもそもアッラーは満ち足りた御方であり、あなたたちの財産を必要とするわけではなく、あなたたちこそがかれを必要としているはずである。もしあなたがイスラームから不信仰に立ち戻れば、かれはあなたたちを滅ぼしてしまわれ、あなたたちとは別の民をもたらされるだろう。彼らはあなたたちに似ることはなく、かれに忠実な者となるだろう。

本諸節の功德:

- 偽信者の秘密と穢れはその顔の特徴や話し方に表れるものである。
- 試練は、信者を偽信者から選別するための神の慣例である。
- 援助と後ろ盾により、アッラーは信者をお助けになられる。
- アッラーの道において全財産が要求されないのは、神のお慈悲である。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

إِنَّا فَتَحْنَا لَكَ فَتْحًا مُبِينًا ﴿١﴾ لِيُغْفِرَ لَكَ اللَّهُ مَا تَقَدَّمَ مِنْ ذَنْبِكَ
وَمَا تَأَخَّرَ وَيُتِمَّ نِعْمَتَهُ وَعَالِيكَ وَيَهْدِيكَ صِرَاطًا مُسْتَقِيمًا ﴿٢﴾
وَيُضْرِكَ اللَّهُ نَصْرًا عَزِيزًا ﴿٣﴾ هُوَ الَّذِي أَنْزَلَ السَّكِينَةَ فِي قُلُوبِ
الْمُؤْمِنِينَ لِيَزِدُوا إِيمَانًا مَعَ إِيمَانِهِمْ ۗ وَاللَّهُ جُنُودَ السَّمَوَاتِ
وَالْأَرْضِ ۗ وَكَانَ اللَّهُ عَلِيمًا حَكِيمًا ﴿٤﴾ لِيَدْخُلَ الْمُؤْمِنِينَ وَالْمُؤْمِنَاتِ
جَنَّاتٍ تَجْرِي مِنْ تَحْتِهَا الْأَنْهَارُ خَالِدِينَ فِيهَا وَيُكَفِّرُ عَنْهُمْ
سَيِّئَاتِهِمْ ۗ وَكَانَ ذَلِكَ عِنْدَ اللَّهِ قُورًا عَظِيمًا ﴿٥﴾ وَيُعَذِّبُ
الْمُنَافِقِينَ وَالْمُنَافِقَاتِ وَالْمُشْرِكِينَ وَالْمُشْرِكَاتِ الظَّالِمِينَ
بِاللَّهِ ظَرَيبًا ۖ السَّوْءَ عَلَيْهِمْ دَائِرَةُ السَّوْءِ ۗ وَعَضِبَ اللَّهُ عَلَيْهِمْ
وَلَعَنَهُمْ وَأَعَدَّ لَهُمْ جَهَنَّمَ وَسَاءَتْ مَصِيرًا ﴿٦﴾ وَاللَّهُ جُنُودُ
السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ ۗ وَكَانَ اللَّهُ عَزِيزًا حَكِيمًا ﴿٧﴾ إِنَّا
أَرْسَلْنَاكَ شَهِيدًا وَمُبَشِّرًا وَنَذِيرًا ﴿٨﴾ لَتُؤْمِنُوا بِاللَّهِ وَرَسُولِهِ
وَتُعَزِّرُوهُ وَتُوَقِّرُوهُ وَتُسَبِّحُوهُ بُكْرَةً وَأَصِيلًا ﴿٩﴾

本章の趣旨:

預言者とイスラームの信者にとっての勝利と制圧という神の朗報

説明:

①使徒よ、われらはあなたにフダイビヤの和議によって明らかな勝利をもたらした。

②アッラーがこの和議以前かつこれ以降のあなたの過ちを赦し、あなたの宗教を助けることであなたへの恩恵を完遂し、イスラームの正道へあなたを導くためである。

③そして誰も遮ることのできない力強い援助でアッラーがあなたを敵に対して助けるためである。

④信仰の上に信仰が高まるよう、信者の心に不動の精神と安泰の気持ちを与えたのはアッラーである。アッラーにのみ天地の軍勢はあり、かれはお望みの者に助けを与えられる。アッラーは僕たちに役立つことをよく知る御方であり、援助を与えるうえで英明な御方であられる。

⑤アッラーとその使徒を信じる男女の信者を城下や木々の下を川が流れる天国に入れ、彼らの悪行を帳消しにして咎めないためである。求められるもの、すなわち天国を得て、怖れられるもの、すなわち悪行の咎を負うのを遠ざけるといった、ここで言及されていることは、アッラーの御許におけるこれ以上ない成功の成就なのである。

⑥一方、かれは偽信者の男女を罰せられ、アッラーの他に別のものを崇める多神教徒の男女を罰せられる。彼らはアッラーがご自分の宗教を助けることはなく、その御言葉を高めることはないと勝手に思い込むが、懲罰の循環は彼らのもとに舞い戻り、その不信仰や悪しき想念のせいでアッラーのお怒りを買い、そのお慈悲から追い出

され、あの世では永遠の火獄が用意される。帰りどころとして、火獄はなんとおぞましい行先だろうか。

⑦アッラーにのみ天地の軍勢はあり、かれはお望みの者に助けを与えられる。アッラーは威力並びない無敵の御方であり、その創造の御業、ご計画、ご配剤において英明な御方であられる。

⑧使徒よ、われらがあなたを遣わしたのは、あなたの共同体に対する審判の日の証言者として、この世で得られる援助と制圧、あの世で得られる恩恵の吉報を信者に伝える福音の伝達者として、不信仰者にこの世で待ち受ける屈辱と信者による敗北、あの世で待ち受ける痛ましい懲罰を伝える警告者として、である。

⑨きっとあなたたちはアッラーとその使徒を信じ、使徒を敬い丁寧に接し、アッラーを朝晩称えるだろう。

本諸節の功德:

- フダイビヤの和議は、イスラームとムスリムたちにとって偉大な勝利の始まりであった。
- 安らぎは信仰の実りの一つとして、安泰の気持ちと不動の精神をもたらす。
- アッラーを悪く思うことの危険性。アッラーは人間がかれをどう思うかに応じて対応されるからである。
- アッラーの使徒を偉大な存在とみなして尊敬することは必須である。

إِنَّ الَّذِينَ يُبَايِعُونَكَ إِنَّمَا يُبَايِعُونَ اللَّهَ يَدُ اللَّهِ فَوْقَ
 أَيْدِيهِمْ فَمَنْ نَكَثَ فَإِنَّمَا يَنْكُثُ عَلَى نَفْسِهِ وَمَنْ أَوْفَى
 بِمَا عَاهَدَ عَلَيْهِ اللَّهُ فَمَسِيئَتِهِ أَجْرًا عَظِيمًا ﴿١٥﴾ سَيَقُولُ
 لَكَ الْمُخَلَّفُونَ مِنَ الْأَعْرَابِ شَغَلَتْنَا أَمْوَالُنَا وَأَهْلُونَا
 فَاسْتَغْفِرْنَا يَقُولُونَ بِأَلْسِنَتِهِمْ مَا لَيْسَ فِي قُلُوبِهِمْ قُلْ
 فَمَنْ يَمْلِكُ لَكُمْ مِنَ اللَّهِ شَيْئًا إِنْ أَرَادَ بِكُمْ ضَرًّا أَوْ أَرَادَ بِكُمْ
 نِعْمًا بَلْ كَانَ اللَّهُ بِمَا تَعْمَلُونَ خَبِيرًا ﴿١٦﴾ بَلْ ظَنَنْتُمْ أَنْ لَنْ
 يَنْقَلِبَ الرَّسُولُ وَالْمُؤْمِنُونَ إِلَىٰ أَهْلِيهِمْ أَبَدًا وَرَبُّنَا ذَلِكَ فِي
 قُلُوبِكُمْ وَظَنَّتُمْ ظَنَ السَّوءِ وَكُنْتُمْ قَوْمًا بُورًا ﴿١٧﴾ وَمَنْ لَمْ يُؤْمِنْ
 بِاللَّهِ وَرَسُولِهِ فَإِنَّا أَعْتَدْنَا لِلْكَافِرِينَ سَعِيرًا ﴿١٨﴾ وَلِلَّهِ مُلْكُ
 السَّمَاوَاتِ وَالْأَرْضِ يَغْفِرُ لِمَنْ يَشَاءُ وَيُعَذِّبُ مَنْ يَشَاءُ
 وَكَانَ اللَّهُ عَفُورًا رَحِيمًا ﴿١٩﴾ سَيَقُولُ الْمُخَلَّفُونَ إِذَا
 انطَلَقْتُمْ إِلَىٰ مَغَائِرِكُمْ لَتَأْخُذُوهَا ذُرُوعًا وَنَبْتِغْمِكُمْ يَرِيدُونَ
 أَنْ يُبَدِّلُوا كَلِمَ اللَّهِ قُلْ لَنْ تَتَّبِعُونَا كَذَلِكُمْ قَالَ اللَّهُ مِنْ قَبْلُ
 فَسَيَقُولُونَ بَلْ تَحْسُدُونا بَلْ كَانُوا لَا يَفْقَهُونَ إِلَّا قَلِيلًا ﴿٢٠﴾

⑩使徒よ、リドワーンの誓いで多神教徒のマッカの民との戦いを誓約した者は、実際はアッラーとの誓約を結んだのである。というのも、多神教徒との戦いを命じたのはかれだからであり、報いるのもかれだからである。誓約の際に重ねられる手のうえには、アッラーがおられるというわけである。かれは(誓約に臨む)彼らを見ておられ、かれに不明なことは何一つない。よって誓約を破り、その教えを助けるとアッラーに誓ったことを守らなかった者は、誓約反故の害を自分自身で受けることとなる。アッラーがそれで害をこうむるわけではない。一方、その誓いを守った者には、かれは天国という偉大な報奨を与えるだろう。

⑪使徒よ、マッカへの旅路を共にしなかったベドウィンでアッラーが居残らせた者は、あなたから責められると言うだろう。「財産や子供たちの面倒を見るので忙しく、お供できませんでした。どうか私たちの罪をアッラーに赦していただけるようお願いしてください。」預言者に罪の赦し乞いをお願いするなど、心にもないことを言っている。そもそも彼らは罪を悔い改めようとはしていないからである。彼らに言うがよい。「アッラーがあなたたちに良いことを望まれても、良くないことを望まれても、アッラーを前に何かできる人は誰もいません。どれほど隠そうとしても、アッラーはあなたたちの行いをよく知っておられ、かれに不明なことは何一つないのです。」

⑫財産や子供の面倒を見るのに忙しかったというのが、あなたたちが出征できなかった理由ではない。むしろ使徒とその教友皆がやられてしまい、マディーナの家族のものには戻れないだろうと思し、悪魔がそれを心の中で飾り立て、主についても悪しき想念を持ち、預言者を助けはしないだろうと思ひ込んだのがその理由である。あなたたちはアッラーのことを悪く思い、その使徒に背いたために、破滅する民となった。

⑬アッラーとその使徒を信じない者は不信仰者であり、アッラーは不信仰者のために燃え盛る炎を審判の日の罰として用意されたのである。

⑭アッラーにのみ天地の王権はある。お望みの者の罪をお赦しになり、その恩恵によって天国に入れ、その正義によってお望みの者を罰せられる。アッラーは悔い改めた者の罪をよく赦して下さる御方であり、慈悲深い御方であられる。

⑮信者よ、あなたたちがハイバルの戦利品というフダイビヤの和議のあとで取ってよいと約束されたものところへ出立しようとする、アッラーが居残らせた者は言うだろう。「私たちも何か得られるよう一緒に行かせてください。」これら居残り組の者は、このお願いによってハイバルの戦利品をフダイビヤの和議のあとで信者にのみ与えるというアッラーの約束を取り換えようというのである。使徒よ、彼らに言うがよい。「戦利品を得ようと私たちのあとを追ってはなりません。アッラーはフダイビヤに参加した者だけに約束してくださったのです。」彼らは言うだろう。「私たちをハイバルに同行させてくれないのは、アッラーからのご命令ではなく、私たちへの嫉妬があるからです。」事はこれらの居残り組が思い込むようではなく、むしろ彼らはアッラーのご命令や禁止をほとんど理解しない、だからかれへの違反に陥ったのである。

本諸節の功德:

- リドワーンの誓いの地位はアッラーの御許において偉大なものであり、その誓いにかかわった人は最良の人である。
- アッラーを悪く思うことは、罪を犯す原因となり、不信仰にまでつながる原因となり得る。
- 信仰の弱い人は、大変な時には大人しくしているが、野心を見せる時には騒がしくなる。

قُلْ لِلْمُخَلَّفِينَ مِنَ الْأَعْرَابِ سِتْرٌ عَوْنٌ إِلَى قَوْمِ أُولِي بَأْسٍ شَدِيدٍ
 تُفْتَلُونَ لَهُمْ أَوْ يَمْسُومُونَ فَإِنْ تَطِيعُوا يُؤْتِكُمُ اللَّهُ أَجْرًا حَسَنًا
 وَإِنْ تَوَلَّوْا كَمَا تَوَلَّيْتُمْ مِنْ قَبْلُ يُعَذِّبْكُمْ عَذَابًا أَلِيمًا ﴿١٦﴾ لَيْسَ
 عَلَى الْأَعْمَى حَرْجٌ وَلَا عَلَى الْأَعْرَجِ حَرْجٌ وَلَا عَلَى الْمَرِيضِ حَرْجٌ
 وَمَنْ يَطِعِ اللَّهَ وَرَسُولَهُ يُدْخِلْهُ جَنَّاتٍ تَجْرِي مِنْ تَحْتِهَا
 الْأَنْهَارُ وَمِنْ يَتَوَلَّى يَتَوَلَّى عَذَابًا أَلِيمًا ﴿١٧﴾ لَقَدْ رَضِيَ اللَّهُ
 عَنِ الْمُؤْمِنِينَ إِذْ يُبَايِعُونَكَ تَحْتَ الشَّجَرَةِ فَعَلِمَ مَا فِي
 قُلُوبِهِمْ فَأَنْزَلَ السَّكِينَةَ عَلَيْهِمْ وَأَثَبَهُمْ فَتْحًا قَرِيبًا ﴿١٨﴾ وَمَعَانِهِ
 كَثِيرَةٌ يَأْخُذُ وَنَهَا وَكَانَ اللَّهُ عَزِيزًا حَكِيمًا ﴿١٩﴾ وَعَدَّكُمْ اللَّهُ
 مَغَانِمَ كَثِيرَةً تَأْخُذُ وَنَهَا فَعَجَلَ لَكُمْ هَذِهِ وَكَفَّ أَيْدِيَ
 النَّاسِ عَنْكُمْ وَلِتَكُونَ آيَةً لِلْمُؤْمِنِينَ وَيَهْدِيَكُمْ صِرَاطًا
 مُسْتَقِيمًا ﴿٢٠﴾ وَأُخْرَى لِرَفْقِدِرُوا عَلَيْهَا قَدْ أَحَاطَ اللَّهُ بِهَا
 وَكَانَ اللَّهُ عَلَى كُلِّ شَيْءٍ قَدِيرًا ﴿٢١﴾ وَلَوْ قَاتَلَكُمُ الَّذِينَ
 كَفَرُوا لَوَلَّوْا الْأَدْبُرَ لِمَ لَاجِدُونَ وَلِيًّا وَلَا نَصِيرًا ﴿٢٢﴾ سُبَّحَ
 اللَّهُ أَلْبَنَى قَدْ خَلَّتْ مِنْ قَبْلِ وَلَنْ يَجِدَ لِسُنَّتِهِ اللَّهُ تَبْدِيلًا ﴿٢٣﴾

المؤمن

①⑥ 使徒よ、ベドウィンのうち、マッカへの行軍であなたと同行しなかった居残り組を試しつつ言うがよい。「やがて戦に強い強靱な民との戦いに召集をかけられるでしょう。アッラーの道において彼らと戦うか、あるいは彼らが戦いなしにイスラームに入信するかとなります。アッラーがいざなう戦いにおいてかれに従えば、天国という良い報奨を与えて下さるでしょう。ですがマッカへの行軍と同じように居残ってかれに従わなかったなら、痛ましい懲罰で罰するでしょう。」

①⑦ 盲目や身体の障がい、病気などの事情がある者には、アッラーの道における戦いに参加できなかったとしても罪はない。アッラーとその使徒に従う者を、かれは城下や木々の下を川が流れる天国に入れて下さるが、逆らって従わない者は痛ましい懲罰で罰せられるだろう。

①⑧ フダイビヤの木の下でリドワーンの誓いによってあなたに誓いを立てた信者にアッラーは満足され、彼らの心の中には信仰と純真さ、誠実さがあることを確認された。そうして彼らの胸中に安らぎをもたらし、マッカに入れなかった代わりにハイバルの勝利というその後間もない勝利でもって報いられたのである。

①⑨ そしてハイバルの民から数多くの戦利品を得られるように与えられた。アッラーは無敵で威力並びなく、その創造の御業やご計画、ご配剤において英明な御方であられる。

②⑩ 信者よ、アッラーはあなたたちに将来各地でのイスラームによる領土拡大を通して得られる数多くの戦利品を約束された。ハイバルの戦利品を与え、ユダヤ教徒があなたたちの留守の間に家族を襲おうとしたのを防いでくださったのは、すぐに手に入れられた戦利品をあなたたちにとってのアッラーのご援助の印とされ、あなたたちを正道へ導くためであった。

②⑪ また、アッラーはあなたたちに今すぐは手に入れられない別の戦利品をも約束してくださった。アッラーだけが力を及ぼすことのできるものであり、今それはかれの知識とご計画の中にある。アッラーは全能であり、何ものもかれを妨げることはない。

②⑫ 信者よ、たとえアッラーとその使徒を信じようとしないうちが戦いをけしかけてきても、やがて彼らはあなたたちの目前で負けをさらけ出して逃げていこう。彼らには後見役も援助者もないのである。

②⑬ 信者の勝利と不信仰者の敗北は、全ての時代と場所において確実な出来事であり、これらの否定者の前に過ぎ去った共同体に定められたアッラーの摂理である。使徒よ、アッラーの摂理に変更はないのだ。

本諸節の功德:

- クルアーンがたとえばイスラームの領土拡大など、後の世における目に見えないことの実現を伝えているのは、クルアーンがアッラーの御許からもたらされたものであることの決定的な証拠である。
- イスラームの法規定は、優しさと容易さに基づいている。
- リドワーンの誓いに参加した者にとっての報奨は、この世で得られたものとあの世に取り置かれるものがある。
- 虚偽とその民に対する真理とその民の勝利は、神の摂理である。

24) **かれ**こそは80人ほどの多神教徒の男がフダイビヤであなたたちに危害を加えようとした手を止めてくださり、あなたたちが彼らを傷つけたりして一戦交えてしまわないように押しとどめてくださった御方。それだけでなく、彼らを捕虜にした後で武装解除させることができるようにしてください。アッラーはあなたたちの行うことを見ておられる。**かれ**に不明なことは何一つないのである。

25) 彼らこそアッラーとその使徒を信じようとせず、あなたたちに禁忌のあるマシドを禁じ、供犠を禁じ、屠殺の場である禁忌のある場所にたどり着けないまま抑留させた者である。もしあなたたちが男女の信者を不信仰者と間違えて殺めてしまう可能性がなかったなら、マッカの信者のようにアッラーがお望みの者をそのお慈悲に入れて下さるよう、マッカ征服を許可して下さっただろう。マッカで信者と不信仰者の見分けがついたなら、アッラーとその使徒を信じようとしなかった者に痛ましい懲罰を味わわせていただろう。

26) アッラーとその使徒を信じようとしない者の心に、イスラーム以前の無明時代特有の誇りを **かれ**はもたらされた。真理を真理とすることではなく、我欲に基づく誇りである。そうして彼らはフダイビヤの和議締結の年にアッラーの使徒をマッカに入れてしまうと自分たちが負けたと恐れるのを恐れてそれを阻止した。だがそこでアッラーはその使徒と信者の心に安らぎをもたらし、(マッカ入りを阻止された)怒りが彼ら信者をして多神教徒への報復に突き動かすことはなかった。こうしてアッラーは信者に「アッラーの他に神なし」という真理の言葉を守らせ、それが意味するところを実践させたのである。信者はこの言葉に誰よりも見合う行動をとり、心の中に宿す善良さをアッラーが知るにつけ、それに相応しい者であった。アッラーは全てを知っておられ、**かれ**に不明なことは何一つない。

27) アッラーはその使徒が夢に見て教友に伝えたものを正夢とされた。それは彼とその教友が禁忌のあるアッラーの家(マシド)に敵から安全な状態而入っていき、巡礼行事の最後に禁忌状態を解くものとして剃髪した者もあれば、短くした者もあったというものである。信者よ、たとえあなたたちがわからなくても、アッラーには何があなたたちの役に立つかをわかっておられるのだ。だからその年にマッカ入りの正夢を実現されなかったことをむしろやがて来る勝利とされたのである。それがアッラーの実現されたフダイビヤの和議であり、フダイビヤの和議締結に居合わせた信者の手によって成し遂げられた、それに続くハイバルの勝利であった。

28) アッラーこそがその使徒ムハンマドを明らかな論拠とイスラームという真理の教えをもって遣わされた御方であられる。それは様々な異なる宗教全てのうえに(イスラームを)高々と掲げるためであり、すでにアッラーがそれを証言されたのである。証言者はアッラーで十分というもの。

本諸節の功德:

- アッラーの道を邪魔することは、痛ましい懲罰を受けて当然の報いとなる罪である。
- 人間のためになるアッラーのご配剤は、限られた人智の及ばないものである。
- 血縁や無明時代の誇りを信仰の絆に置き換えることへの注意喚起。
- イスラームという教えがその勢力を露わにするのは道理であり、すでに実現された神のお約束である。

وَهُوَ الَّذِي كَفَّ أَيْدِيَهُمْ عَنْكُمْ وَأَيْدِيَكُمْ عَنْهُمْ بِبَطْنِ مَكَّةَ مِنْ
 بَعْدَ أَنْ أَظْفَرَكُمْ عَلَيْهِمْ وَكَانَ اللَّهُ بِمَا تَعْمَلُونَ بَصِيرًا ﴿٥٤﴾
 هُمُ الَّذِينَ كَفَرُوا وَصَدُّوا عَنْ الْمَسْجِدِ الْحَرَامِ
 وَالْأَهْدَىٰ مَعَكُوفًا أَنْ يَبْلُغَ مَجَلَّةً ۚ وَلَوْلَا رِجَالُ الْمُؤْمِنُونَ وَالسَّاءِ
 مُؤْمِنَاتٌ لَّمْ تَعْلَمُوهُمُ أَنْ تَطْهُوهُمْ فَفَصَّيْبُكُمْ مِنْهُمْ مَعْرَّةً ۗ
 بِغَيْرِ عِلْمٍ لِيَدْخُلَ اللَّهُ فِي رَحْمَتِهِ مَنْ يَشَاءُ لَوْ تَزَيَّلُوا لَعَذَّبْنَا
 الَّذِينَ كَفَرُوا مِنْهُمْ عَذَابًا أَلِيمًا ﴿٥٥﴾ إِذْ جَعَلَ الَّذِينَ كَفَرُوا
 فِي قُلُوبِهِمُ الْحَمِيَّةَ حَمِيَّةَ الْجَاهِلِيَّةِ فَأَنْزَلَ اللَّهُ سَكِينَتَهُ
 عَلَىٰ رَسُولِهِ وَعَلَى الْمُؤْمِنِينَ وَأَلْزَمَهُمْ كَلِمَةَ التَّقْوَىٰ
 وَكَانُوا أَحَقَّ بِهَا وَأَهْلَهَا وَكَانَ اللَّهُ بِكُلِّ شَيْءٍ عَلِيمًا ﴿٥٦﴾
 لَقَدْ صَدَّقَ اللَّهُ الرُّسُلَ بِالْحَقِّ لَتَدْخُلَنَّ الْمَسْجِدَ
 الْحَرَامَ إِنْ شَاءَ اللَّهُ ءَامِنِينَ مُحَلِّقِينَ رُءُوسِهِمْ وَمُقَصِّرِينَ
 لَا تَخَافُونَ ۗ فَعَلِمَ مَا لَمْ تَعْلَمُوا فَجَعَلَ مِنْ دُونِ ذَلِكَ
 فَتْحًا قَرِيبًا ﴿٥٧﴾ هُوَ الَّذِي أَرْسَلَ رَسُولَهُ بِالْهُدَىٰ وَدِينِ
 الْحَقِّ لِيُظْهِرَهُ عَلَى الدِّينِ كُلِّهِ وَكُنِيَ بِاللَّهِ شَهِيدًا ﴿٥٨﴾

⑲ムハンマドはアッラーの使徒であり、彼と共にいる教友は敵対する不信仰者に対しては厳しいが、仲間内では情け深く思いやりに満ちた優しい者たちである。彼らに視線を向ける人よ、あなたは彼らが至高のアッラーに祈りを捧げて立礼、平伏礼をしつつ、アッラーのお赦しと良き報奨、お喜びをお願いするのを見るだろう。彼らの印は導きと姿勢、礼拝の光がその顔に表れた平伏礼の跡である。それがムーサーに下された律法で描かれている描写でもある。一方、イーサーに下された福音書では、彼らの例えはその完全なまでの相互扶助から小さな芽が庭の高さまで大きく育ち、植えた人がその見事な実りに感心する農作物である。それはアッラーが彼らを通してその力強い様と連携ぶり、完全さを不信仰者に見せつけ、悔しい思いをさせるためである。アッラーを信じ、善行を行う教友に罪を咎められることのない赦しと天国という偉大な報奨をアッラーは約束してくださった。

مُحَمَّدٌ رَسُولُ اللَّهِ وَالَّذِينَ مَعَهُ أَشِدَّاءُ عَلَى الْكُفَّارِ رُحَمَاءُ بَيْنَهُمْ
تَرَاهُمْ رُكَّعًا سُجَّدًا يَبْتَغُونَ فَضْلًا مِنَ اللَّهِ وَرِضْوَانًا لِيَسِيَّمَاهُمْ
فِي أَرْجُوهُمْ مِنْ أَثَرِ السُّجُودِ ذَلِكَ مَثَلُهُمْ فِي التَّوْرَةِ وَمَثَلُهُمْ فِي
الْإِنْجِيلِ كَرَنَجٍ آخَرَجَ شَطْرَهُ فَكَازَرَهُ فَاسْتَغْلَظَ فَاسْتَوَى
عَلَى سُوْقِهِ يُعْجِبُ الزُّرَّاعَ لِيغِيظَ بِهِمُ الْكُفَّارَ وَعَدَّ اللَّهُ الَّذِينَ
ءَامَنُوا وَعَمِلُوا الصَّالِحَاتِ مِنْهُمْ مَغْفِرَةً وَأَجْرًا عَظِيمًا ⑳

سورة الحجرات

49. 部屋章(アル・フジュラート)

マディーナ啓示

本章の趣旨:

発言に注意して、その個人の信仰と社会の道徳への影響の説明

説明:

① アッラーを信じ、定められたことに従う者たちよ、アッラーとその使徒に先んじて何か言ったりしてはならない。アッラーのご命令を果たし、禁止を避けることでアッラーを意識せよ。本当にアッラーはあなたたちの言うことを聴き、することを御方であり、何一つ見逃されることはなく、行いに応じて報いられる。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ
يَأَيُّهَا الَّذِينَ ءَامَنُوا لَا تَقْدِمُوا بَيْنَ يَدَيِ اللَّهِ وَرَسُولِهِ وَاتَّقُوا
اللَّهَ إِنَّ اللَّهَ سَمِيعٌ عَلِيمٌ ① يَأَيُّهَا الَّذِينَ ءَامَنُوا لَا تَرْفَعُوا
أَصْوَاتَكُمْ فَوْقَ صَوْتِ النَّبِيِّ وَلَا تَجْهَرُوا لَهُ بِالْقَوْلِ كَجَهْرِ بَعْضِكُمْ
لِبَعْضٍ أَن تَحْبَطَ أَعْمَالِكُمْ وَأَنتُمْ لَا تَشْعُرُونَ ② إِنَّ الَّذِينَ
يُعْضُونَ أَصْوَاتَهُمْ عِنْدَ رَسُولِ اللَّهِ أُولَئِكَ الَّذِينَ امْتَحَنَ
اللَّهُ قُلُوبَهُمْ لِتَتَّقُوا لَهُمْ مَغْفِرَةٌ وَأَجْرٌ عَظِيمٌ ③ إِنَّ الَّذِينَ
يُنَادُونَكَ مِنْ وَرَاءِ الْحُجُرَاتِ أَكْثَرُهُمْ لَا يَعْقِلُونَ ④

① アッラーを信じ、その教えに従う者よ、使徒には礼節をもって接し、話しかけるときは預言者の声よりも大きな声を出してはならない。また、お互いに呼びかけ合うように、呼び捨てにしてはならない。預言者や使徒など、柔らかい呼称でもって呼びかけよ。あなたたちの知らないところでそうした無礼な振る舞いにより、善行への報奨が無効にされてしまう恐れがあるからである。

② アッラーの使徒のもとで声を落とす者こそ、その心がかれを意識するものかどうか試みられ、純真なものとされた者である。彼らにはお咎めなしの罪の赦しがあり、審判の日には天国入りという偉大な報奨がある。

③ 使徒よ、バドウィンのうち、あなたの妻の部屋の後ろからあなたを呼ぶ者は、そのほとんどが考えていないのである。

本諸節の功德:

- 信者には慈悲が、敵対する不信仰者には厳しさが法に合う。
- 相互支援と相互扶助が使徒の教友たちの人となりであった。
- 教友への憎しみを胸中に見出す人は、不信仰に陥ることが懸念される。
- アッラーの使徒に対して礼儀正しくあることの義務。またそれは彼の道(スンナ)に対しても、相続者(学者たち)に対しても然りである。

وَلَو أَنَّهُمْ صَبَرُوا حَتَّى تَخْرُجَ إِلَيْهِمْ لَكَانَ خَيْرًا لَّهُمْ وَاللَّهُ غَفُورٌ رَحِيمٌ ﴿٥﴾ يَا أَيُّهَا الَّذِينَ آمَنُوا إِن جَاءَكُمْ فَاسِقٌ بِنَبَأٍ فَتَبَيَّنُوا أَن تُصِيبُوا قَوْمًا بِمَهْلَةٍ فَتُصِيبُوا عَلَى مَا فَعَلْتُمْ بَلَغَتْنَا مِن بَيْنِ أَعْيُنِنَا إِن كُنتُمْ كَارِهِينَ ﴿٦﴾ وَلَئِن كُنْتُمْ تُحِبُّونَ اللَّهَ فَاتَّبِعُوا أَمْرَهُ وَكَرِهُوا كَرَاهِيَةَ اللَّهِ وَلَئِن رَّغِبْتُمْ عَنْهُ فَإِنَّكَ لَفِي قَلْبِكَ مُخَلَّفِينَ ﴿٧﴾ وَمَنْ يَتَّبِعْ أَهْلَ عَادٍ فَإِنَّهَا أُوَّاهِنَةٌ مُّسْتَضْعَفَةٌ مَّتَّعْنَاهَا سِنِينَ وَأَنذَرْنَاهَا يَوْمَ يُؤْتَى السَّعْدِيَّةَ فَتُلَاقَى جَمْعًا مُّجْتَمِعَةً فَتَكْفُرُ ۗ إِنَّهَا كُنتُمْ بَلَاغًا لِلْعَالَمِينَ ﴿٨﴾ وَإِن كُنْتُمْ تُحِبُّونَ اللَّهَ فَاتَّبِعُوا أَمْرَهُ وَكَرِهُوا كَرَاهِيَةَ اللَّهِ وَلَئِن رَّغِبْتُمْ عَنْهُ فَإِنَّكَ لَفِي قَلْبِكَ مُخَلَّفِينَ ﴿٩﴾ وَمَنْ يَتَّبِعْ أَهْلَ عَادٍ فَإِنَّهَا أُوَّاهِنَةٌ مُّسْتَضْعَفَةٌ مَّتَّعْنَاهَا سِنِينَ وَأَنذَرْنَاهَا يَوْمَ يُؤْتَى السَّعْدِيَّةَ فَتُلَاقَى جَمْعًا مُّجْتَمِعَةً فَتَكْفُرُ ۗ إِنَّهَا كُنتُمْ بَلَاغًا لِلْعَالَمِينَ ﴿١٠﴾ وَإِن كُنْتُمْ تُحِبُّونَ اللَّهَ فَاتَّبِعُوا أَمْرَهُ وَكَرِهُوا كَرَاهِيَةَ اللَّهِ وَلَئِن رَّغِبْتُمْ عَنْهُ فَإِنَّكَ لَفِي قَلْبِكَ مُخَلَّفِينَ ﴿١١﴾ وَمَنْ يَتَّبِعْ أَهْلَ عَادٍ فَإِنَّهَا أُوَّاهِنَةٌ مُّسْتَضْعَفَةٌ مَّتَّعْنَاهَا سِنِينَ وَأَنذَرْنَاهَا يَوْمَ يُؤْتَى السَّعْدِيَّةَ فَتُلَاقَى جَمْعًا مُّجْتَمِعَةً فَتَكْفُرُ ۗ إِنَّهَا كُنتُمْ بَلَاغًا لِلْعَالَمِينَ ﴿١٢﴾

⑤使徒よ、もし仮にあなたの妻の部屋の後ろからあなたを呼ぶこれらの者が辛抱してあなたが出て来るまで呼びつけることなく小さな声で話しかけたなら、そのほうが尊敬の念を持った礼節ある態度として彼らにとってもよい。アッラーは彼らのうち悔い改める者、誰であれ悔い改める者の罪をよく赦して下さる御方であられる。無知のために過ちを犯したことをよく赦して下さる御方であり、慈悲深い御方なのである。

⑥アッラーを信じ、定められたことを実践する者よ、行いが悪く信頼に値しない者がある民の情報をもたらした時には、それが正しい情報かどうかを確認し、鵜呑みにして行動を起こしてはならない。確認なしにその情報を信じてしまうと、本当の事情を知らないままある民に罪を着せ、何か行動を起こしてしまってからその情報が嘘であったと明らかになることで、後悔する恐れがあるからである。

⑦信者よ、あなたたちの間には、啓示が下されるアッラーの使徒がいるのだということを知れ。あなたたちが嘘をつこうものなら、その嘘を暴く啓示が彼に下されるかもしれないから気をつけよ。彼のほうがあなたたちに役立つことをよりよく知っているのだ。(彼に従うよりも)あなたたちが彼に提案する多くのことに従ったとしたら、きっと望ましくない困難に陥ってしまうだろう。しかしながらアッラーはその恩恵により信仰を愛しいものとしてくださり、あなたたちの心の中でそれをよいものとして信じさせてくださり、さらに不信仰やかれへの反逆を嫌悪させてくださった。これらの特徴を兼ね備えた者こそ、正道を歩む者である。

⑧あなたたちの心の中でよいものをよしとし、悪いものを嫌悪するようになったことは、ひとえにアッラーの寛大さであり、恩恵である。アッラーは誰がかれに感謝して成功をお恵みになるかを知っておられ、全てを相応しい場所に置かれる英明な御方であられる。

⑨信者よ、もし信者の間で二つの集団が争いを始めたなら、相違の解決をアッラーの定めに従って求めよといざなうことで仲裁せよ。そしてもしそれでも二つのうち一つが和議を断って敵対してきたならば、アッラーの裁定に立ち戻ろうとするまでその敵対行為をけしにかけてきた集団と戦え。だがもし一度彼らがアッラーの裁定に立ち戻ろうとした時には、両者の間を正義と公平さをもって仲裁し、裁定において公平であれ。本当にアッラーは裁定において公平な者を好まれる。

⑩イスラームでは、信者は兄弟である。信者よ、イスラームにおける同胞愛では争い合う兄弟の間を取り持つことが肝要である。お慈悲をかけていただけるよう、そのご命令を果たし、禁止を避けることでアッラーを意識せよ。

⑪アッラーを信じ、定められたことを実践する者よ、あなたたちのうち、ある民が別の民を馬鹿にするようなことがあってはならない。馬鹿にされた方がアッラーの御許ではより優れているかもしれないからである。教訓はアッラーの御許でどう評価されるか、なのだ。ある女性がまた別の女性を馬鹿にすることがあってもならない。馬鹿にされたほうがアッラーの御許ではより優れているかもしれないからである。同胞の欠点をあげつらってはならない。彼らはあなたたち自身と同じだからである。また、アッラーの使徒がやって来る前まで、(マディーナの)一部の援助者(アンサール)がそうであったように、相手が嫌がるあだ名で呼び合ってもならない。それをあえて行う者は悪徳の人であり、信仰を持つようになったあとで持ち続ける悪徳の性格ほど、悪い性格はない。こうした罪から悔い改めない者こそ、自ら罪を犯して破滅の原因に身をさらす不義の徒である。

本諸節の功德:

- 情報は真偽の確認が必須である。特にその伝達者が悪徳で知られる者であれば、なおのことである。
- ムスリムの間で戦い合う者は、これを仲裁しなければならぬ。また、和議を拒み、あえて敵対する集団には戦いをもって臨むことが認可される。
- 信仰を分かち合う兄弟の権利には、以下の事柄などが挙げられる。争い合う者同士の間での仲裁、相手の気持ちを傷付ける行為(嘲笑や批判、冷やかしのあだ名で呼び合うことなど)から遠ざかること。

يَأْتِيهَا الَّذِينَ ءَامَنُوا أَجْتَبْنَا وَكَثِيرًا مِّنَ الظَّنِّ إِنَّ بَعْضَ الظَّنِّ
 إِتْمَرٌ وَلَا جَنَسَسُوا وَلَا يَغْتَبَّ بَعْضُكُم بَعْضًا أَيُحِبُّ أَحَدُكُمْ أَن
 يَأْكُلَ لَحْمَ أَخِيهِ مَيْتًا فَكَرِهْتُمُوهُ وَاتَّقُوا اللَّهَ إِنَّ آتِ اللَّهِ
 قَوَابِلٌ رَّحِيمَةٌ ﴿١٦﴾ يَأْتِيهَا النَّاسُ إِنَّا خَلَقْنَاكُمْ مِّن ذَكَرٍ وَأُنثَىٰ وَجَعَلْنَاكُمْ
 شُعُوبًا وَقَبَائِلَ لِتَعَارَفُوا إِنَّ أَكْرَمَكُمْ عِنْدَ اللَّهِ أَتَقَىٰكُمْ إِنَّ اللَّهَ
 عَلِيمٌ خَبِيرٌ ﴿١٧﴾ قَالَتِ الْأَعْرَابُ ءَأَمَّا قُلٌّ لِّمُؤْمِنُوا وَلَكِن
 فُؤُلُوا أَسْمَانًا وَلَمَّا يَدْحُلِ الْإِيْمَنُ فِي قُلُوبِكُمْ وَإِن تُطِيعُوا اللَّهَ
 وَرَسُولَهُ لَا يَلِتْكُمْ مِّنْ أَعْمَالِكُمْ شَيْئًا إِنَّ اللَّهَ غَفُورٌ رَّحِيمٌ ﴿١٨﴾
 إِنَّمَا الْمُؤْمِنُونَ الَّذِينَ ءَامَنُوا بِاللَّهِ وَرَسُولِهِ ثُمَّ لَمْ يَرْتَابُوا
 وَجَهَدُوا بِأَمْوَالِهِمْ وَأَنْفُسِهِمْ فِي سَبِيلِ اللَّهِ أُولَٰئِكَ هُمُ
 الصَّادِقُونَ ﴿١٩﴾ قُلْ أَعْلَمُونَ أَنَّ اللَّهَ بِدِينِكُمْ وَاللَّهُ يَعْلَمُ مَا فِي
 السَّمَوَاتِ وَمَا فِي الْأَرْضِ وَاللَّهُ بِكُلِّ شَيْءٍ عَلِيمٌ ﴿٢٠﴾ يَمُنُونَ
 عَلَيْكَ أَن أَسْلَمُوا قُلْ لَا تَمُنُوا عَلَيَّ إِسْلَمَكُمْ بَلِ اللَّهُ يَمُنُّ
 عَلَيْكُمْ أَن هَدَىٰكُمْ لِلْإِيْمَنِ إِن كُنْتُمْ صَادِقِينَ ﴿٢١﴾ إِنَّ اللَّهَ يَعْلَمُ
 غَيْبَ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ وَاللَّهُ بِصِيرٍ بِمَا تَعْمَلُونَ ﴿٢٢﴾

⑫ アッラーを信じ、定められたことを実践する者よ、原因や状況証拠を伴わない多くの言いがかりからは遠ざかれ。例えば見た目は敬虔な人を悪く思うなど、本当に一部の思い込みは罪そのものである。また、信者の背後からその欠点を追ってはならない。あなたたちの誰一人として、同胞が嫌がることを述べてはならない。なぜなら、同胞が嫌がることを言うのは、その死肉を食べるのに等しいからである。一体誰が死んだ同胞の肉を食べるのを好むだろうか。だからそれと同じ陰口も嫌うがよい。アッラーのご命令を果たし、禁止を避けることで**かれ**を意識せよ。本当にアッラーは悔い改めた者を見直して下さる。慈悲深い御方であられる。

⑬ 人々よ、**われら**はあなたたちを父祖アダムという一人の男と、祖母ハウワウという一人の女から創造した。だからあなたたちの血筋は一つであり、お互いに血筋の優劣を誇り合ってはならない。その後**われら**はあなたたちを多くの民族と部族にして広めた。お互いに知り合うためである。威張り合うためではない。区別は神を意識する気持ちによるだけだからである。だから仰せられたのだ。「本当にアッラーの御許で最も高貴な者は、最もアッラーを意識する者である。」本当にアッラーはあなたたちの状態をよく知っておられ、良いところも悪いところも熟知しておられる。**かれ**に不明なことは何一つないのである。

⑭ あるペドウィンの民が預言者のもとを訪れると、「我々はアッラーとその使徒を信じます」と言った。使徒よ、彼らに言うがよい。「あなたたちはまだ本当の意味で信じてはいません。だから、『服従し、従います』と言いなさい。あなたたちの心にはまだ信仰が宿っていませんが、やがて宿るかもしれません。」ペドウィンよ、信仰と善行かつ禁止事項を避けることにおいてアッラーとその使徒に従うなら、アッラーがあなたたちの行いの報奨を減らすことはありません。本当にアッラーは悔い改める者をよく赦して下さる、慈悲深い御方であられる。

⑮ 本当の信者とは、アッラーとその使徒を信じ、信仰が疑念と混ざることとはなく、アッラーの道において自らの財産と命をもってけることなく懸命に努力する者である。こうした特徴を備えた者こそ、信仰において誠実な者である。

⑯ 使徒よ、ペドウィンに言うがよい。「あなたたちはアッラーに教えを垂れ、宗教についての法を**かれ**に押し付けるのですか。アッラーは天地にあるものをはじめ、全てのものを知っておられ、**かれ**に不明なことは何一つないのです。だから**かれ**があなたたちから宗教について教えてもらう必要などありません。」

⑰ 使徒よ、これらのペドウィンは自分たちがイスラームに入信したことであなたに恩を着せようとしている。言うがよい、「あなたたちがアッラーの教えを受け入れたことで私に恩を着せようなどとしなさい。それを通してもし役立つことがあったら、それはあなたたちに返されるものなのです。むしろあなたたちが本当に主張する通りイスラーム入信に誠実であったなら、アッラーこそがあなたたちを信仰という成功に導いてくださったことに対してあなたたちに恩を着せてしかるべき御方です。」

⑱ 本当にアッラーは天地の幽玄なるものを知る御方であり、**かれ**に不明なことは何一つない。アッラーはあなたたちのすることを見ておられ、不明なことは何一つなく、行いの善悪に応じて報いられるのである。

本諸節の功德:

- 善良な人を悪く思うことは罪である。だが、悪い人のことを悪く思うことで用心するのは認可される。
- 人類の源が一つであることは、血縁による見栄の張り合いを無意味なものとする。
- 信仰とは、信条を伴わない口先だけのものではない。むしろそれは、心での信条と口による言葉、支柱となる行いである。
- 成功の導きはアッラーの御手にのみよるものであり、ひとえに至高のかれの寛大さによるものであって、誰かの権利としてあるものではない。

本章の趣旨:

死と復活について、心を呼び覚ますこと

説明:

①「カーフ」…同様の解説は雌牛章の冒頭で前述のとおりである。多様な意味合いと善良さや祝福を持つクルアーンによってアッラーは誓いを立てられた。清算と応報のためにあなたたちは審判の日に必ずや蘇らせられるのである。

②彼らが拒絶した理由は、あなたが嘘をつくかもしれないと思ったからではない。あなたの誠実さは彼らもよく知っている。むしろ天使ではなく彼ら自身の中から使徒かつ警告者がやって来たことに驚嘆してのことである。彼らは驚きのあまり言った。「使徒が人間の中から我々のもとにやって来るなど、驚くべきことだ!」

③「我々が死んで塵となった後に蘇らせられると言うのか。我々の身体が朽ち果てた後で命がまた戻される復活など、あり得ない。そんなことが起こるわけがないのだ!」

④われらは大地が彼らの身体をその死後食べ尽くしてしまうのを知っている。われらに不明なことは何一つない。われらのもとには守られた書があり、彼らの生涯もその死後もアッラーが定められたこと全てが記されているのである。

⑤それどころか、彼ら多神教徒は使徒がもたらしたクルアーンを否定した。彼らは混乱しており、落ち着いた行動が取れないのである。

こうして多神教徒が復活を否定する様子を述べられると、それが起こる証拠を挙げて仰せられた。

⑥復活を否定するこれらの者は、頭上にある空について考えてみたことがないのか。われらがそれをいかに創造し、打ち立て、文句をつけるような裂け目もなしに、数々の星をちりばめて飾ったことか。この空を創造した存在にとっては、死者を生きたまま蘇らせることも容易である。

⑦一方、大地をわれらはその住民が過ごしやすいよう

平らにし、揺れ動かないように数々の山を不動のものとして打ちつけた。それから植物や樹木の種類全てを見て美しいものとした。

⑧われらはこうしたものを、己の主の忠実に立ち返る全ての僕にとっての教訓かつ心覚えとしたのである。

⑨また、われらは空から多くの益と良いものをもたらす水を降らせ、その水によって多くの庭園を茂らせ、麦の種など収穫できるものを生い茂らせた。

⑩また、われらはむき出しで背の高いナツメヤシの木々を茂らせた。それには幾重にも重なる実がついている。

⑪われらがそれらを生い茂らせたのは、僕たちが食べられるような糧とするためであり、草木のない国を生き返らせもした。この雨によって草木のない国を生き返らせたように、われらは死者を生き返らせ、生きた状態で(地中から)出てくるのである。

⑫使徒よ、あなたを否定するこれらの者以前にも、それぞれに遣わされた預言者を否定した民はいくつもあった。ヌーフの民や井戸の民、サムードも然りである。

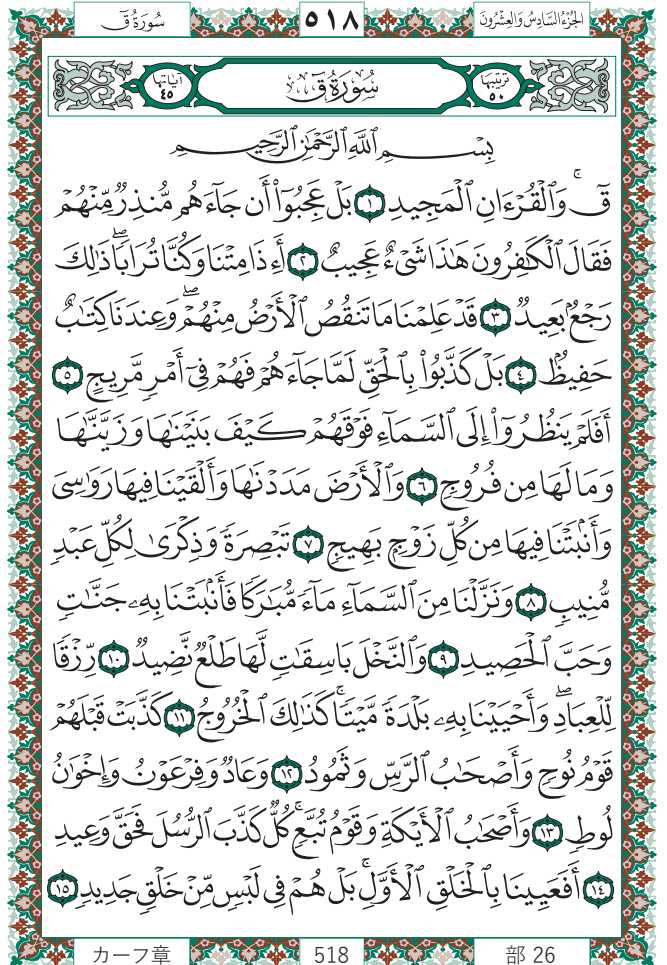
⑬アードやフィルアン、ルートの民もそうである。

⑭シュアイブの民、アイカ(森)の民、イエメンの王トウッパウの民も使徒(アッラーの祝福と平安を)を否定したため、アッラーが約束された懲罰が確かなものとなった。

⑮あなたたちを復活させられないほどに、われらはあなたたちをそもそも創造できなかったらうか。彼らは最初の創造に次ぐ新しい創造の前に迷っているのである。

本諸節の功德:

- 多神教徒は人間が神の預言者となることをあり得ないこととするが、岩が神の特性を持つことには平然としている。
- 天地の創造、雨を降らせ、大地を生い茂らせること、最初の創造は、全て復活があり得る証拠である。
- 使徒たちを否定するのは、過去の共同体の慣習であり、否定者を罰するのは神の習わしである。



وَلَقَدْ خَلَقْنَا الْإِنْسَانَ وَعَلَّمُوهُ سُبُوْحَهُ نَفْسَهُ، وَنَحْنُ أَقْرَبُ إِلَيْهِ
 مِنْ جَبَلٍ أَلْوَيْدٍ ﴿١٦﴾ اذِيتَلَقَى الْمَتَّقِيْنَ عَنِ الْيَمِيْنِ وَعَنِ الشَّمَالِ
 فَعِيْدٌ ﴿١٧﴾ مَا يَلْفُظُ مِنْ قَوْلٍ إِلَّا لَدَيْهِ رَقِيبٌ عِيْدٌ ﴿١٨﴾ وَجَاءَتْ سَكْرَةُ
 الْمَوْتِ بِالْحَقِّ ذَلِكَ مَا كُنْتَ مِنْهُ تَحِيْدٌ ﴿١٩﴾ وَنُفِخَ فِي الصُّوْرِ ذَلِكَ
 يَوْمَ أَوْعِيْدٍ ﴿٢٠﴾ وَجَاءَتْ كُلُّ نَفْسٍ مَعَهَا سَائِقٌ وَشَهِيدٌ ﴿٢١﴾ لَقَدْ
 كُنْتَ فِي غَفْلَةٍ مِنْ هَذَا فَكَشَفْنَا عَنْكَ غِطَاءَكَ فَبَصَرُكَ الْيَوْمَ حَدِيْدٌ
 ﴿٢٢﴾ وَقَالَ قَرِيْبُهُ هَذَا مَا لَدَى عَعِيْدٍ ﴿٢٣﴾ اَلْقِيَا فِي جَهَنَّمَ كُلَّ كَفَّارٍ
 عَنِيدٍ ﴿٢٤﴾ مُتَّاعٍ لِلْخَيْرِ مُعْتَدٍ مُرِيْبٍ ﴿٢٥﴾ الَّذِي جَعَلَ مَعَ اَللّٰهِ اَلِهًا
 اٰخَرَ فَاَلْقِيَا فِي الْعَذَابِ الشَّدِيْدِ ﴿٢٦﴾ قَالَ قَرِيْبُهُ رَبَّنَا مَا اَلْفَيْتَنَاهُ
 وَلٰكِنْ كَانَ فِي ضَلٰلٍ بَعِيْدٍ ﴿٢٧﴾ قَالَ لَا تَخْتَصِمُوْا لَدَيْ وَاَقْدَمْتُمْ
 اِلَيْكُمْ بِالْوَعِيْدِ ﴿٢٨﴾ مَا يَبْدُلُ الْقَوْلَ لَدَيْ وَا اَنَا بَظَلْمٍ لِّلْعَعِيْدِ ﴿٢٩﴾
 يَوْمَ نَقُوْلُ لِحِجَّتِهِمْ هَلْ اٰمَنَّا وَنَقُوْلُ هَلْ مِنْ مَّرِيْدٍ ﴿٣٠﴾ وَاَزْلَمْتِ
 الْجَنَّةُ الْمُتَّقِيْنَ غَيْرَ بَعِيْدٍ ﴿٣١﴾ هَذَا مَا تُوْعَدُوْنَ لِكُلِّ اَوْابٍ حَفِيْظٍ
 ﴿٣٢﴾ مَنْ خَشِيَ الرَّحْمٰنَ بِالْغَيْبِ وَجَاءَ بِقَلْبٍ مُّنِيْبٍ ﴿٣٣﴾ اَدْخُلُوْهَا
 بِسَلَامٍ ذَلِكَ يَوْمُ الْخُلُوْدِ ﴿٣٤﴾ اَلْهَمَّ مَا يَشَاءُوْنَ فِيْهَا وَلَدَيْنَا مَزِيْدٌ ﴿٣٥﴾

①⑥ われらが人間を創造したのだから、去来する思いや考えといった自我が自ら語りかけるものをよく知っている。われらは、心につながる首の頸動脈よりも人間に近い存在なのである。
 ①⑦ 二人の天使がその行動を見受けて記録している。一人は右側に、もう一人は左側である。
 ①⑧ 何を言うにも、天使がその場において監視しているのである。
 ①⑨ やがて逃げようのない真実である激しい死がやって来る。不注意な人間よ、これこそあなたが後回しにし、逃げていたものである。
 ②⑩ 角笛を吹く使命を帯びた天使が2度目の角笛を吹くと、それが審判の日となる。それは不信仰者や罪を犯した者たちに懲罰の約束が警告された日である。
 ②⑪ 全ての者は天使に引き連れられてやって来る。その者の行いに対して証言する天使である。
 ②⑫ そうして引き連れられてきた人間には言われるのだ。「生前あなたは欲望と享楽に溺れてこの日について不注意であった。だがわれらは懲罰と苦難に相応しいあなたの不注意ぶりを暴いた。今日あなたは自分が不注意であったことをまざまざと目の当たりにするだろう。」
 ②⑬ そこでその者の付き添いとして担当を任されていた天使は言う。「これが彼のありのままの行いです。過不足は一切ありません。」
 ②⑭ アッラーは付き添いと証言者の天使二人に仰せられる。「真理を拒み、それに反抗する全ての不信仰者を火獄に投げ入れよ。」
 ②⑮ それはアッラーが真理により義務付けたことを何でも拒み、アッラーが定められた(ご法度の)境界線を越え、約束であれ警告であれ、告げられるものに疑念を抱く者である。
 ②⑯ アッラーと共に別のものを崇拜対象として崇める者、これも痛ましい懲罰に投げ入れよ。
 ②⑰ 連れ添っていた悪魔たちは無関係を装って言う。「われらが主よ、私が彼を迷わせたではありません。彼自身が真理から遠く迷っていったのです。」

②⑱ アッラーは仰せられる。「われのもとで言い争うではない。そんなことをしても無駄である。この世でわれはあなたたちのためにわれの使徒を遣わし、われを信じようとせず、われに背く者には痛ましい懲罰があると警告したのである。
 ②⑲ われのもとで言葉が変えられることはなく、わが約束が違えられることはない。われが僕たちの善行を減らしたり、悪行を増やしたりして不当に扱うことはなく、その行いに応じて報いるのである。
 ③⑰ われらが火獄に、「投げ入れた不信仰者や罪人でもういっぱいか?」と問いかける日、「まだ追加がありますでしょうか?」と追加を願ひ、主への義憤と共にそれ(火獄)は応える。
 こうしてアッラーは不信仰者への厳しい警告を述べられると、信者に用意されたことを述べるために仰せられる。
 ③⑱ 主のご命令を果たし、禁止を避けることで主を意識する者のために天国は近付けられ、彼らはその遠くない恩恵を見る。
 ③⑲ そして言われるのだ。「これこそアッラーが悔悟によって主に立ち返る全ての人、主が課せられたことを守る人のために用意されたものである。」
 ③⑳ それはアッラーにしか見られないところでもアッラーを恐れ、アッラーに近付きたいと健全な心でアッラーとのお目見えに臨み、何でもかれに立ち返る人。
 ④⑰ またこうも言われる。「あなたたちが嫌なものから解放された平安と共に天国に入るがよい。これがそれ以降消えることのない永続の日である。」
 ④⑱ 彼らには尽きることのない恩恵が望むままにあり、われらのもとには目が見たこともなく、耳が聴いたこともなく、人間が想像したことのないさらなる恩恵がある。その一つが、至高のアッラーのお姿を拝見することである。

本諸節の功德:

- アッラーは、善悪何であれ人間が心に宿す思いを知っておられる。
- あの世に不注意であることの危険性。
- 至高のアッラーには、正義という特徴がある。

36 これらのマッカの民で真理を否定する多神教徒より以前に、**われら**はどれほど多くの共同体を滅ぼしたことか。彼らは国々を探し回って懲罰からの逃げ場を求めたが、見つけれなかった。

37 本当にすでに言及された過去の共同体滅亡の話には、考えることのできる心の持ち主や心を込めて静かに聴き入ることのできる人にとっての訓戒がある。

38 **われら**は天地を創造し、その間にあるものを創造した。一瞬で創造することもできたが、あえて6日間かけてのことである。だが、ユダヤ教徒が言うように疲れを覚えたことは少しもない。

39 使徒よ、ユダヤ教徒が言うことには辛抱せよ。日が昇る前に主を称えてファジュル(早朝)の礼拝を捧げ、日が沈む前にアスル(遅い午後)の礼拝を捧げよ。

40 夜にも礼拝を捧げ、礼拝の後には**かれ**を称えよ。

41 使徒よ、角笛を吹く使命を帯びた天使が2度目の角笛を近くで吹いて呼びかけるとき、よく聞かすよ。

42 全ての被造物が疑いなき真理による復活の叫びを聞く日、その日こそ死者が清算と応報のために墓から出される日である。

43 **われら**こそ生かし、死なせる存在であり、**われら**の他に生かすことも死なすこともできるものはいない。**われら**のものにのみ、清算と応報のために人間は審判の日に戻されるのである。

44 大地が裂け、(墓中の者たちが)急いで出て来るその日、そうした復活は**われら**にとっては容易いことである。

45 これら真理の否定者が何と言っているかを**われら**はよりよく知っている。使徒よ、そもそもあなたは彼らを支配して信仰を無理強いする者ではない。あなたはアッラーが伝達を命じたことを伝える人である。だから不信仰者や罪人への**わが**恐ろしい約束を恐れる者に、クルアーンで思い起こさせよ。恐れる者こそが啓発を素直に受け止め、思い起こされれば、しかと思い起こすからである。

وَكُرْهُمَ أَهْلَكَ نَا قَبْلَهُمْ مِّن قَرْنٍ هُمْ أَشَدُّ مِنْهُمْ بَطْشًا فَنَقَّبُوا فِي الْبِلَادِ هَلْ مِن مَّجِيسٍ ﴿٣٦﴾ إِنَّ فِي ذَلِكَ لَذِكْرًا لِمَن كَانَتْ لَهُ قَلْبٌ أَوْ أَلْقَى السَّمْعَ وَهُوَ شَهِيدٌ ﴿٣٧﴾ وَلَقَدْ خَلَقْنَا السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضَ وَمَا بَيْنَهُمَا فِي سِتَّةِ أَيَّامٍ وَمَا مَسَّنَا مِن لُّغُوبٍ ﴿٣٨﴾ فَاصْبِرْ عَلَىٰ مَا يَقُولُونَ وَسَبِّحْ بِحَمْدِ رَبِّكَ قَبْلَ طُلُوعِ الشَّمْسِ وَقَبْلَ الْغُرُوبِ ﴿٣٩﴾ وَمِن لَّيْلِ فَسَبِّحْهُ وَأَدْبَرَ الْسُّجُودِ ﴿٤٠﴾ وَأَسْتَمِعُ يَوْمَ يُنَادِ الْمُنَادُ مِن مَّكَانٍ قَرِيبٍ ﴿٤١﴾ يَوْمَ يَسْمَعُونَ الصَّيْحَةَ بِالْحَقِّ ذَلِكَ يَوْمَ الْخُرُوجِ ﴿٤٢﴾ إِنَّا نَحْنُ نُحْيِيهِ وَنُمِيتُهُ وَإِلَيْنَا الْمَصِيرُ ﴿٤٣﴾ يَوْمَ تَشَقُّقُ الْأَرْضُ عَنْهُمْ سِرَاعًا ذَلِكَ حَشْرٌ عَلَيْنَا يَسِيرٌ ﴿٤٤﴾ نَحْنُ أَعْلَمُ بِمَا يَقُولُونَ وَمَا أَنْتَ عَلَيْهِم بِجَبَّارٍ فَذَكَرْ بِالْقُرْآنِ مَن يَخَافُ وَعِيدِ ﴿٤٥﴾

سُورَةُ الْقَارُونَ ﴿٤٥﴾

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

وَالذَّرِيَّتِ ذُرْوًا ﴿١﴾ فَأَلْحَمْتُكَ وَقَرَأْتُ ﴿٢﴾ فَأَلْجَرِيَّتِ يُسْرًا ﴿٣﴾ فَأَلْمَقْسِمَاتِ أَمْرًا ﴿٤﴾ إِنَّمَا تُوْعَدُونَ لَصَادِقٌ ﴿٥﴾ وَإِنَّ الدِّينَ لَوَاقِعٌ ﴿٦﴾

51. 撒き散らすもの章(アッ・ザーリヤート)

マッカ啓示

本章の趣旨:

ジンと人間に、彼らの糧の源はアッラーしかないことを知らしめること、そしてアッラーにしっかりと従うことを教えること

説明:

- 1 土埃を巻き起こす風にかけて、アッラーは誓われている。
- 2 豊かな水をたたえる雲にかけて。
- 3 容易に楽々と海の上を走る船にかけて。
- 4 僕たちの諸事を任じられた天使たちにかけて誓われている。
- 5 あなたたちの主が約束された清算や報いは疑いのない真実であり、
- 6 僕たちが清算されるのは、審判の日確実に起こることなのである。

本諸節の功德:

- 歴史的な出来事から教訓を得るのは、自覚した心の持ち主だけである。
- アッラーが世界を6日で創造されたのは、アッラーの知る英知のためであり、その英知の一つとして、物事は段階を経て進めるものという摂理を明らかにすることがあるかもしれない。
- 至高のアッラーが天地創造の後で疲れたと表現するのは、ユダヤ教徒が(神に対して)無礼だからであり、これはアッラーへの不信仰に等しい。

وَالسَّمَاءَ ذَاتِ الْجَبَبِ ۗ إِنَّكُمْ لَفِي قَوْلٍ مُّخْتَلِفٍ ۝٨ يُؤْفَكُ عَنْهُ مَنْ
 أَفُكَ ۝٩ قَتَلَ الْحَرَصُونَ ۝١٠ الَّذِينَ هُمْ فِي عَمْرَةٍ سَاهُونَ ۝١١ يَسْأَلُونَ
 أَيَّانَ يَوْمُ الدِّينِ ۝١٢ يَوْمَهُمْ عَلَى النَّارِ يُقْتَنُونَ ۝١٣ ذُوقُوا قِتْنَتَكُمْ
 هَذَا الَّذِي كُنْتُمْ بِهِ تَسْتَعْجِلُونَ ۝١٤ إِنَّ الْمَتَّقِينَ فِي جَنَّاتٍ وَعُيُونٍ
 ۝١٥ ءِخْذِينَ مَاءً تَنْهَضُونَ رِئْهُمَ ۝١٦ كَأَنَّهُمْ كَانُوا قَبْلَ ذَلِكَ مُحْسِنِينَ ۝١٧
 كَانُوا قَبْلَ ذَلِكَ مِنَ النَّارِ مَا يَهْجَعُونَ ۝١٨ وَبِالْأَسْحَارِ هُمْ يَسْتَغْفِرُونَ ۝١٩
 وَفِي أَمْوَالِهِمْ حَقٌّ لِّلسَّائِلِ وَالْمَحْرُومِ ۝٢٠ وَفِي الْأَرْضِ آيَاتٌ
 لِّلْمُوقِنِينَ ۝٢١ وَفِي أَنْفُسِكُمْ أَفَلَا تُبْصِرُونَ ۝٢٢ وَفِي السَّمَاءِ رِزْقُكُمْ
 وَمَا تُوعَدُونَ ۝٢٣ فَوَرَبِّ السَّمَاءِ وَالْأَرْضِ إِنَّهُ لَحَقٌّ مِّثْلَ مَا أَنَّكُمْ
 تَنْطِفُونَ ۝٢٤ هَلْ أَتَاكَ حَدِيثُ صَيْبِ بْنِ هَيْبَةَ الْمَكْرَمِينَ ۝٢٥ إِذْ
 دَخَلُوا عَلَيْهِ فَقَالُوا سَلِّمًا قَالَ سَلِّمٌ قَوْمٌ مُّسْكِرُونَ ۝٢٦ فَرَأَى إِلَيْهِ
 أَهْلَهُ فَجَاءَ بِعَجَلٍ سَمِينٍ ۝٢٧ فَقَرَّبَهُ إِلَيْهِمْ قَالَ أَلَا تَأْكُلُونَ
 ۝٢٨ فَأَوْحَسَ مِنْهُمْ خِيفَةً ۝٢٩ قَالُوا لَاحْتَفَ ۝٣٠ وَبَشَّرُوهُ بِعُلْمٍ عَلَيْهِ ۝٣١
 فَأَقْبَلَتْ أَمْرَأَتُهُ فِي صَرَّةٍ فَصَكَّتْ وَجْهَهَا وَقَالَتْ عَجُوزٌ عَقِيمٌ ۝٣٢
 قَالُوا كَذَلِكَ قَالَ رَبُّكَ إِنَّهُ هُوَ الْحَكِيمُ الْعَلِيمُ ۝٣٣

- ⑦ アッラーは様々な道を有する美しい空にかけて誓いを立てられる。
- ⑧ マッカの民よ、あなたたちは矛盾したあべこべなことを言っている。時には「クルアーンは魔術だ」と言い、時には「詩だ」と言う。ムハンマドについても、時には魔術師、時には詩人だと言う。
- ⑨ かれはクルアーンと預言者を通し、アッラーの知識において遠ざけられた人を信仰から遠ざける。その人が信じることはなく、導きへの成功も得られないのを知っておられるからである。
- ⑩ クルアーンや預言者への言い様で、これらの否定者は呪われた。
- ⑪ 無知で愚かな状態にある者は、あの世に不注意であり、無関心である。
- ⑫ 「報いの日はいつのことか」と彼らは尋ねるが、彼らにはわからない。
- ⑬ そこでアッラーは答えられる。「彼らが炎で罰せられる日である。」
- ⑭ 彼らには言われるのだ。「罰を味わうがよい。これこそあなたたちが警告を受けた時には馬鹿にしてその到来を急がしていたものである。」
- ⑮ ご命令を果たし、禁止を避けることで主を意識する者には、審判の日に数々の庭園と流れる泉がある。
- ⑯ 主に与えられた寛大な報奨を受けるのである。彼らはこの寛大な報奨を受ける前の生前から、誠意を尽くす者であった。
- ⑰ 夜間に礼拝をし、少ししか眠らず、
- ⑱ 深夜には主に罪の赦し乞いをする者であった。
- ⑲ また、自分の財産のうちの一部を率先して物乞いする人であれ、あえて物乞いしない人であれ、どんな理由であれ、糧を遮られた人に施す取り分を定める者であった。
- ⑳ 大地やアッラーが置かれた山や海、川や木、植物や動物には、アッラーこそが造形の創造主だと確信する者へアッラーの御力を示す証がある。
- ㉑ 人々よ、あなたたち自身の中にも、アッラーの御力を示す証があるのだ。よく見て考慮しないのか。

- ㉒ また、天にはこの世の糧と宗教的な糧があり、善悪どちらかの約束されたものがある。
- ㉓ 天地の主にかけて、復活は疑いなき真実である。例えばそれは、あなたたちが発話するときの疑いのない発音のようなものだ。
- ㉔ 使徒よ、果たしてあなたに、実は天使たちをもてなしていたというイブラーヒーム(平安あれ)の客人の話が届いたか。
- ㉕ 彼らが彼の家に入ると、「平安あれ」と言うので、イブラーヒームもまた「平安あれ」と返したが、心中では「知らない人たちだ」と思うのだった。
- ㉖ そうしてそと彼は家族のそばに行き、丸々と太った羊の丸焼きを持ってきた。彼ら(客人)が人間と思っていたことである。
- ㉗ 羊の丸焼きを近づけ、穏やかに言った。「もてなしの料理をお召し上がりになれませんか?」
- ㉘ 彼らが食べないのを見て、彼(イブラーヒーム)は内心恐怖を感じた。それを感知した彼らは安心させるために言った。「恐れなくてください。私たちはアッラーに遣わされた使徒です。」そうして彼らは、やがて知識の豊かな子、すなわちイスハークが生まれるという喜びの知らせを告げた。
- ㉙ 彼の妻がその福音を聞くと、歓喜の声を挙げながら近づいてきて、顔を叩きつつ驚いて言った。「年寄りの石女が子を産むというのですか?!!」
- ㉚ 天使たちが彼女に言った。「私たちがあなたたちにお伝えしたのは、主の仰せられたことです。主の仰せに抗う者はおりません。かれはその創造の御業やご計画において英明な御方であり、被造物とそのためになるものを熟知する御方なのです。」

本諸節の功德:

- 最善を尽くし、アッラーにのみ善行を捧げることは、天国入りのきっかけとなる。
- 最良の善行の一つである、夜間礼拝の徳。
- もてなしの礼節:より良い挨拶を返すこと。人知れず食卓を用意すること。客人の到来前の受け入れ準備。食卓に不備がないようにすること。食卓準備の監督と手早い準備。客人に料理を持ち寄り、優しく話しかけること。